

一九世紀中葉バルケスイルの都市社会と商工業

——アバ産業を中心に——

江川 ひかり

一 問題の所在

一九世紀のオスマン帝国における社会経済変動を、世界資本主義による「周縁化」の過程としてとらえる視点は、S・パムツクやR・カサバなどによって一九八〇年代に問題提起された⁽¹⁾。そして近年、このような視点を基礎としながらも、オスマン帝国内部における経済発展の側面を明らかにしようとする試みがD・カータルトによって進められている⁽²⁾。カータルトは一九世紀のオスマン帝国におけるマニュファクチュアの発展と変容を考察し、国家主導による官営工場がヨーロッパ製品との競争に敗れる一方で、中小規模の製造業が地方に勃興したことを指摘した。ただし、一九世紀オスマン帝国において官営工場が基盤となって製造業が発展したことについては、永田雄三⁽³⁾、M・S・キュテュクオウル⁽⁴⁾、T・ギュラン⁽⁵⁾などによってすでに論じられてきた視点であり、カータルトはそれらの研究を「周縁理論」との関わりから整理し直すことを試みたといえる。

具体的には、カータルトはオスマン帝国におけるマニュファクチュアの発展を大きく次の三期に分けて考えている。第

一期は、すでにオスマン製品の輸出が減少しつつあり、他方で英国製品が東地中海地域へ大量に輸入された一八〇〇年から一八二六年である。第二期は、オスマン工業、とりわけ織物産業が壊滅的打撃を受けた一八二六年から一八七〇年である。ただし、この時期には一方では新たなオスマン工業の萌芽が見られたことも指摘された。そして第三期の一八七〇年から一九一四年までの時期には、多くの工業部門でマニユファクチュアによる生産高が増大し、しかもこの増大は国内市場および輸出向けの双方に見られるものであったと、カータルトは述べている。⁽⁶⁾

ところで官営工場設立の第一期から第二期への転換の年である一八二六年にはイエニチェリ軍団が廃止され、新たに創設された軍隊においてヨーロッパ式軍服の着用が義務づけられた。この服装改革にともない、オスマン政府は軍服製造に必要な生地を確保しなければならなくなった。とくに冬服に必要とされたアバ *aba* は、バルカン地域ではブルガリアのプロヴディフなどで、アナトリアではバルケスイル *Balkesir* において生産されたことが、キュテュクオウルの研究で明らかにされた。⁽⁷⁾ アバとは毛織物の一種で、その特徴は目が粗いことである。さらに一八五〇年代に、バルケスイルにはアバ工場が建設されたことがカータルトによって指摘されている。⁽⁸⁾ このように軍服用のアバ生産地としてバルケスイルがオスマン政府の産業振興策に組み込まれたこと、したがってバルケスイルの事例は国家主導の工業化とマニユファクチュアの問題とに具体的にかかわることが理解される。

以上述べてきた問題関心を踏まえて、本稿では一八四〇年のバルケスイルの『資産台帳 *Temettuat Defteri*』⁽⁹⁾ を用いて、バルケスイルにおける都市社会の変容の具体的ありようをとくにアバ産業を中心に考察する。

二 研究 史

オスマン帝国の都市研究全般に関しては、林佳世子⁽¹⁰⁾によってすでに研究史が詳しく整理されているため、ここではバル

ケスイル地方に焦点をしばって、同地方史研究について述べたい。バルケスイル地方史に関して最初にまとめられた著作は、I・H・ウズンチャルシユルによる『カレスィ州小史⁽¹¹⁾』である。一九三〇年代に入ると、政権政党であった共和人民党の地方組織として活動した「民衆の家」が母体となって各地で文化運動を行ない、郷土史の編纂が進められた。バルケスイルの「民衆の家」の出版シリーズとして、K・スウによってなされたバルケスイル周辺地域の遊牧民集団に関する研究⁽¹²⁾と一七・一八世紀バルケスイルの都市生活に関する研究とがある。いずれもシャリーア法廷記録を用いた研究である。またこの時期に「民衆の家」の出版物として地方別に雑誌が編まれたが、バルケスイルでも『カイナク』誌⁽¹⁴⁾が発行された。

『カイナク』誌は、地方の慣習や伝承、方言や民謡などからスウによる歴史論考に至る豊富な内容を含んだ地方史資料といえる。その後、郷土史家M・エレンなどによるいくつかの地方史を除いては、M・イルギュレルによるバルケスイルのアーヤーンに関する論考⁽¹⁶⁾、さらに本格的に文書史料を解読したR・ギュンドーウによる一七世紀初頭のシャリーア法廷記録を用いた修士論文⁽¹⁷⁾とA・ユンリュヨルによる一八世紀初頭のシャリーア法廷記録を用いた博士論文⁽¹⁸⁾とがまとめられたにすぎない。

前述したとおり一九世紀前半、バルケスイルが新軍隊の軍服に使うアバの供給地に指定されたことがキュテュクオウルの研究によって明らかにされた⁽¹⁹⁾。この研究においてキュテュクオウルは、新軍隊を構成する各軍団において着用が義務づけられた軍服の種類を整理した上で、さらにそれらの軍服用の生地を政府がいかにして調達しようとしたかを明示した。また、軍服のなかでとくに冬服に使用されたアバの生産地としてアナトリアではバルケスイルが指定され、バルケスイルに割り当てられた生産量などが明らかにされた⁽²⁰⁾。つまりこの研究は、単なる一八二六年の軍隊における服装改革のみならず、それに伴って需要が増大した繊維製品の生産計画を経済史的視点から考察した意義深い研究であるといえる。

一方、イスタンブルに工場群が設立された一九世紀中葉、バルケスイルには軍隊向け製品を生産するアバ工場が創設された。しかし、フランスからの機械類を獲得しようという努力にもかかわらず、バルケスイルのアバ工場は一八四九年に

においてもまだ備品などに不備があったという⁽²¹⁾。加えてカータルトは、バルケスイルのアバ工場に関する詳細は不明だが、バルケスイル周辺のハレメイン⁽²²⁾という名の遊牧民集団が糸つむぎ人として働き、彼らが賃金を受けとる一方で、免税の措置を受けていたとも述べ、遊牧民と定住民との経済的関係を指摘している⁽²³⁾。

とはいえ、オスマン帝国におけるマニフ・アクチュアの発展に関するカータルトの関心はどちらかといえば一九世紀後半に重点が置かれている⁽²⁴⁾。例えばカータルトは、先に述べたキュテュクオウルの研究を参照していない。しかしながら、一九世紀バルケスイルにおけるアバ産業に関するカータルトの指摘と、とりわけキュテュクオウル⁽²⁵⁾の分析は筆者の問題関心に直接関わるテーマである。ただし、両者は中央からの視点で論じており、一地方社会としてのバルケスイルに焦点をあててそこにおける社会的経済的状况を明らかにしようとしているわけではない。バルケスイルにおけるアバ産業は一六世紀にまでさかのぼることができるといわれており、一八二六年の服装改革によって突如として発展をとげたわけではない。むしろバルケスイルのアバ産業が伝統産業としてある程度の生産段階にまで達していたからこそ、バルケスイルがアバ生産地として指定され、同時にその要請に対応できたのではないだろうか。

うえに述べた研究史上の問題点の一つは、地方住民の経済状況を記録した史料の欠落にあった。例えば、財産目録による都市社会の分析の例として永田雄三・永田真知子によるボスニアの事例⁽²⁶⁾があり、地域は異なるが分析の手法を学ぶことができる。財産目録に比べて住民をより網羅的に調査対象とした『資産台帳』は、住民ひとりひとりの資産、税額、生業など経済単位としての個人に関する詳細な情報が記録された史料である。この『資産台帳』を分析したいくつかの研究がすでになされているが、⁽²⁷⁾ いずれも数値の分析に重点がおかれ、諸改革による地方社会の変容という視点からの考察は、ほとんどなされていない。筆者は、一八四〇年のバルケスイルの『資産台帳』を用いてすでに土地所有に関する分析を行なった⁽²⁸⁾。これをふまえて、本稿では住民の資産、収入など経済状況を分析することによって、バルケスイルの都市民の職業構成や都市社会の内部構造を復元し、さらにアバ産業の発展状況を明らかにしたい。本研究は、一九世紀オスマン帝国に

おける改革の地方社会への影響と、地方社会における工業化の連続面と非連続面とを示す例を明らかにし、同時に『資産台帳』分析の意義を新たな問題視角から提示することになろう。

三 バルケスイルの内部構造

一八四〇年『資産台帳』が対象とするバルケスイル郡とは、今日のバルケスイル市を中心とするバルケスイル県の中心郡よりやや広い地域であった。⁽²⁸⁾ 本稿ではこの一八四〇年『資産台帳』が対象とするバルケスイル郡の主都をバルケスイルと呼び、今日のバルケスイル県の領域をバルケスイル地方と呼ぶことにする。バルケスイル地方は、ススルク川の支流が形成した沖積平原の西側に位置し、中央部には海拔一三〇メートルの平原が広がっている(地図1参照)。バルケスイル平原の西側の山を越えればエーゲ海に通じ、南側の山を越えればマニサ平原に下りていく。土壌と気候は農業に適しており、年間平均気温は一四・五度で、夏は暑く、冬の寒さはさほど厳しくはない。⁽²⁹⁾

バルケスイル地方は一三四五年ごろにオスマン朝に帰属し、一四世紀末にはカレスイ県となった。今日のバルケスイル県のおおよその境界はこのころに形成されたと考えられる。その後、行政区分は時代によって変化した⁽³⁰⁾が、一八四〇年当時、バルケスイルはヒュダーベンディギヤール(ブルサ)州カレスイ県の主都であった。

(一) 街区と施設

別稿においてすでに述べたとおり、『資産台帳』は徴税単位となる戸主ごとにその資産、収入、納税額が記された台帳である。各戸主の記録の文頭には、「戸の通し番号」および「個人番号」が、その下に戸主名、外見上の特徴および彼の通称が記され、さらにその下に戸主の資産、すなわち耕作地などの面積および評価額、土地を除く不動産物件の種類、件数お

よび評価額、家畜の種類、頭数および評価額がそれぞれ記され、最後の行に、該当戸主の総資産額、収入額、税額が記されている(表3参照)。一八四〇年におけるバルケスイルの総戸数は表1に示したとおり一五六二戸で、男性人口は最後の人物の「個人番号」に示された二九四八人あまりと考えられる⁽³⁰⁾。

『資産台帳』のうち都市部を対象とした台帳は、表1に示した合計二〇の街區別に記録されており、これらの街区は一八世紀初頭のシャリーア法廷記録で確認された街区名と一致している。街区の範囲は『資産台帳』には記述されていないため、街区の境界を画定することはできないが、現代の市街図にもとづいてユニリュールが作成した一八世紀初頭の地図⁽³¹⁾に、『資産台帳』の情報を加えたものが地図2である。

地図2からわかるように、町の北部をブルサから右折してエドレミトへ通じる幹線道路が東西に走っており、その北側には小さな川が流れている。一方、町の東部にはブルサから南下してゲレムベを経てイズミルへと通じる幹線道路が南北に走っている。初期の町の中心部は、街区⑧のサフニ・ヒサル⁽³²⁾〔城壁の中庭〕を意味する)を中心として、地図2に示した街区⑭、⑫、⑤、⑩を含む領域であったと推測されている⁽³³⁾。

バルケスイルも他のイスラーム世界の都市と同様、ワクフ制度によって町のインフラストラクチャーが整えられてきた。A・アイハンは、カレスイ侯国の時代からトルコ系住民のアナトリア定住を目的としてワクフ制度を利用してこの町の建設が行なわれたことを指摘している⁽³⁴⁾。とくに町の中核となった施設は、コンスタンチノープル征服の指揮官だったザガノス・パシャによるワクフ施設群である。ザガノス・パシャのワクフ施設群は、ザガノス・パシャ・モスク、慈善施設⁽³⁵⁾、屋根付市場⁽³⁶⁾、浴場⁽³⁷⁾などから構成されていた。これ以外にも古くから多くのワクフ施設が存在したことが明らかにされてきた。スウは、ザガノス・パシャのワクフ物件として九二件の店舗と屋根付市場と浴場とが存在し、そのあたりが市内で最も人が集まり、最も活気ある場所であったが、一七世紀中葉に発生した火災によって全て焼失してしまい、その後再建されたことを伝えるシャリーア法廷記録を紹介している⁽³⁶⁾。一八世紀初頭においても城壁街区⑧とその西側のイリヤス・パ

シャ・ハーン周辺が町の政治および商業の中心地であった。これらの施設は一九世紀中葉にいたっても存続していたと考えられるが、『資産台帳』にはワクフ施設の場所や規模の詳細は記されていない。したがって、『資産台帳』から施設の名前やそれらの位置を網羅的に確認することはできないが、各個人の職業に関する説明による限りにおいて、ワクフ物件として設定されている建物を知ることができる。

街区の中心的施設であるモスクに関しては、例えば各個人の職業に関する説明の中で、「ハジュ・アリー・モスクの導師^{イマム}」あるいは「ザガノス・パシャ・モスクの導師」などの記述から、一八四〇年には、二〇街区中一八の街区には街区名と同名のモスクがあり、モスクの導師は一部の例外を除いてはそれぞれのモスクが存在する街区に住んでいたことが確認される。また、別の人物に関してであるが、「街区の導師」という記述もみられることから、導師はモスクにおける礼拝の指導者であるのみならず、モスクを中心とした街区社会のリーダーであったと考えられる。

さらにはイタリア語起源の言葉ロンジャ Lonca と呼ばれる商工会館の存在が確認される。オスマン帝国における商工業者は、ヨーロッパに見られたギルドのような同職集団を組織した⁽³⁷⁾。一八世紀ごろになると、ムスリムと非ムスリムとが共同して同じギルドを構成する必要性が生じたために、かつてはギルド成員である商人の集合場所であったザーヴィエ（神秘主義教団の修道場）から商^{ロンジャ}会館⁽³⁸⁾へ集まるようになったという。『資産台帳』のなかで商工会館に関する情報として、街区⑥に関する部分に商工会館の周辺にある店の所有者や、綿取引の商工会館内にある店を所有する者といった記述がある。このことから街区⑥には綿取引業者の商工会館の存在が確認され、同時に綿商工会館内には商店があることがわかる。このようなギルドの会館がイリヤス・パシャ・ハーンを中心とする地域にあることから、この地域を含む街区⑥が、一九世紀中葉においても依然として商業の中心地であったと考えられる。

ところで一八世紀初頭には存在していなかった新たに造られた施設も『資産台帳』の中で言及されている。ただし、新施設のなかで最も重要な建築物である時計台 sa'at kulesi に関しては、残念ながら台帳には記されていない。時計台との関

わりを想起させる人物とは、都市にたった一人住んでいる時計職人と、商人のギリデー・ザーデ・ハジ・ヤークブ・ベイと、ヤークブ・ベイの兄弟でバスケスイルに隣接する村に住むギリデー・ザーデ・メフメト・パシヤである（表2および表3参照）。この時計台は一八二八／二九年に、ギリデー・ザーデ・メフメト・パシヤがバルケスイル住民のために造らせもので、三時間ごとに時を告げていたといわれ、以後バルケスイルを代表するモニュメントとなった（地図2参照）。ギリデー・ザーデ家は古いトルコ系の家系で、一族の中にクレタ島内で代官職を経験した者がいるために「ギリデー（クレタ島の）・ザーデ」家と呼ばれたが、ハジ・ヤークブ・ベイとメフメト・パシヤの父はバルケスイルのアーヤーンであった。

さて、そもそも一九世紀中葉のオスマン帝国においてはバルカンおよびカフカースから多くの移民が流入し、アナトリアの諸都市で人口が増加した結果、街区もまた増加した。このような人口の急増による都市の拡大にともない、諸都市で新たな「行政地区 yönetim yeri」を設け、そこに市庁舎、軍営所、時計台、電報局などの公共施設が建設された⁽⁴¹⁾。つまり、新たな市庁舎や時計台の建設は、都市社会が大きく変動し始めていることを示す一つの指標となった。実際バルケスイルにおいても、時計台の北側には一九世紀の終わりには重要会議がおこなわれる木造建築物があったことが指摘されている⁽⁴²⁾。その後、この地に市庁舎が建てられたことや時計台の西となりには農業銀行が、さらにその西には軍営所および高等学校が建てられたこと、さらには街区①および⑬の人口数の多さなどを考慮すれば、一九世紀前半から徐々に都市が拡大し、時計台を中心とした一帯が新しい行政地区として整備されつつあったと考えられるのである。

時計台が象徴するもう一つの意味は、時間の概念の変化を促した点である。もともとオスマン帝国において時計は礼拝の時刻を示す観点から重要視された。そして一七世紀中葉には短針のみの時計が存在し、国内で時計が作られていたようである⁽⁴³⁾。近代社会における時計台の出現は、たんなる礼拝のための「時間」から労働のための「時間」という、時間の概念の変化と生活のリズムの変容とを示すものとして理解される。時計台の出現はバルケスイル社会へ近代的な「時間」の

観念が導入されたことを示すものではあるまいか。

次に住民に注目して、表1に示された一戸あたりの平均資産、収入、納税額の分析から所得の相違による住み分けの意味を考えてみたい。グラフ1のAをみると、街区別の税額は収入に対して平均約二一・三パーセントとなるが、戸別に数値を確認してみると一定の率で必ずしも算出されているわけではない。⁽⁴⁴⁾したがってここではとりあえず一戸あたりの平均資産および収入の合計を目安にすると、合計額の高い街区は、戸数一戸の街区⑪をのぞけば⑫、⑥、⑮が挙げられる（グラフ1のB参照）。これらのうち⑥および⑮は古くから商業の中心地であり、内部にある店舗数七二を数えたイリヤス・パシャ・ハーンがその拠点となっていた。とくに街区⑥には次節で述べるように役人や名士、裕福な商工業者が住んでおり、地方名士家系のギリデー・ザーデ・ハジ・ヤークブ・ベイ（表3参照）⁽⁴⁵⁾をはじめとして、都市と農村とに資産を所有する人々が居住している。これに隣接した街区⑫もまた裕福な者が住みついた街区であると考えられる。

これに対して街区⑬、⑭、⑮、⑯は資産および収入の額が最も低い街区である。例えば街区⑬には一六人の寡婦が登録されている。これらに加えて、街区④や⑩にも寡婦や農村出身者など比較的低所得者層が住んでいる。とくに川沿いになり、当時は町はずれにあたる街区④の住民の中には、賃貸住宅に借家人として住む者八戸が確認された。同じケースは街区⑬、⑮、⑯にも見られる。つまりこれら町の周縁部の街区は、外から移住してきた单身者が多く住みついて形成された低所得者層の街区であると考えられる。

さて、かつては町はずれの地であった街区⑪は、『資産台帳』では一戸が記録されているにすぎない。十八世紀前半の法廷記録によれば、この街区に住む大多数は非ムスリムであったという。⁽⁴⁶⁾このことから、一八四〇年当時も街区⑪は非ムスリムの街区であったと推察される。『資産台帳』に記載されたこの街区の住民は、「チンゲネ・オウル（ジプシーの息子の意）」の通称で知られている、中背で、灰色の顎髭をもった、皮なめし職人、ヤークブ・アガ」である。まず、ヤークブ・アガは「チンゲネ・オウル」として知られていることから、村々を移動する日本の鋳掛け屋のような集団の出身であると

思われる。ヤークブ・アガは自らの工房を三件も所有する皮なめし職人だが、皮なめし職人の多くが所有している免許状ゲディキを所有してはいない(表3参照、免許状に関しては次節参照)。その他の彼の資産を見ると、自作農と考えてもおかしくない、平均値以上の面積をもつ耕作地を保有していることから、近郊の村で他の者に農業を行なわせ、自らは都市に住み着いた皮なめし職人だったのでないだろうか。

皮なめしは作業に多量の水を必要とし、しかも悪臭を放つので、通常町はずれに密集していることが多い。バルケスイルでは中心部の北側を東西に流れる小川沿いの③、⑦、⑩などの街区に皮なめし職人が多く住んでいることが表2から明らかである。街区⑪には川は確認されないが、古くは井戸(47)があり、また現在は噴水池が存在している。すでに『資産台帳』の分析がなされたアイドウン・ギュゼルヒサルにおいても、都市の南部に小川が流れており、そこには皮なめし市場があり、その街区も「皮なめし職人街」と呼ばれていた。⁽⁴⁸⁾以上のことを考慮すれば、ヤークブ・アガは古くから皮なめし職人が多く住む町の北側ではなく、かつては町の中心部からはずれていた非ムスリムの街区⑪に住み着いて、免許状をもたずに皮なめし工房を構えていたのである。ところが、先に述べたように、時計台が造られるなど都市社会の変動にともなって、『資産台帳』作成当時の街区⑪は、町はずれではなく町の行政の中心地に隣接する街区へと変容していく途上にあったのである。

(二) 都市民の職業構成

バルケスイルの『資産台帳』に関する限り、ほとんどの戸主に関して職業名あるいは職業に関連した説明が記されている(グラフ2—A参照)。都市民のうち、軍関係者をのぞいた就労者の職業を分析するにあたり、(A) 宗教・教育、(B) 行政、(C) 農業、(D) 商工業、(E) 肉体労働、(F) その他の六種類に大別した⁽⁴⁹⁾(グラフ2—Bおよび表2参照)。

宗教・教育職として、郡の法学者ムフタイ、マドラサ教授、初等学校教師 Muallim-i-sibyan、導師、説教者ハディープ、礼拝告知人、長老、

修道僧、宗教学生が、行政関連の職業としては県知事の前代官、街区^{ムフタール}区長、街区収税吏、書記、治安警官が挙げられる。

地方行政の観点からいえば、マフムト二世時代から各州の状況を把握するために、各県の判事、^{カーディー}代理判事、^{ナリイブ}アーヤーンなどの地方有力者が毎年、州都へ集められ、州会議が開かれていた。この会議が素地となつて、タンズイマート改革以後は、新たに州、県、郡にそれぞれ地方議会が組織された。この地方議会は全国に派遣される徴税官を中心に徴税額の決定・配分とその徴収とを第一目標とする地方行政の役割をも果たした。⁽⁵⁰⁾ 議会のメンバーは、財務書記 *hâl katibi*、人口・不動産書記 *nüfus ve emlak katibi*、^{ハッキム}裁判官、法学者、治安警官、さらに地方有力者の中から選出された四人の代表者であつた。

『資産台帳』の中でこの地方議会のメンバーに相当する人物を探してみると、街区①の筆頭に「郡の法学者にしてファトマ・スルタン・マドラサの教授」である人物が登録されている（表3）。彼の資産額は一九九七クルシュで裕福であるが、これら二つの役職についているために免税扱いをうけている。このほかに地方議会のメンバーと考えられる「書記 *katip*」でありかつ「人口調査官 *defter-i nüfus nazırı*」とも記された人物（表3）が存在する。このうち人口調査官はもともとマフムト二世時代に実施された人口調査のために設置された人口調査官職に相当するものであると考えられ、人口調査官職がタンズイマート改革以降も継続していることが確認される。⁽⁵¹⁾

『資産台帳』では人口調査を担当するもう一つの職として「ジュルナル *jurnal*」という役職名を与えられた者が一名いる（表3）。M・チャドルジュは、一八三一年の人口調査を契機として設置された「人口調査官」の下部組織として「^{ムカイイド}台帳官」あるいは「ジュルナル」と呼ばれた現場で調査を行なう職が存在し、彼らは地方名士およびカーディーによって選出されたと述べている。⁽⁵²⁾ したがって、バルケスイルにおける資産調査においても、このような役人が関わっていたと考えられる。しかし、この「ジュルナル」であるアフメド・エフェンディは、「商人 *hüccar*」でもある。名前に付されている職業名は必ずしもその人物の職業を意味するわけではなく、たんなる通称とも考えられる。⁽⁵³⁾ したがって、もしこの「ジュルナル」

が通称だと仮定するならば、現代でいえば「情報通の」という意味になろう。ただし、一九世紀中葉という時代背景を考慮するならば、アフメド・エフェンディは商人であると同時に「ジュルナル」の公職にも従事していた人物と考えるほうが妥当であろう。実際、表3に示したアフメド・エフェンディの資産をみると、アバ店、耕作地、家畜、近郊の農村にある製粉場の割当分からなり、都市と農村とにバランスよく資産を築いた富裕な商人であることがわかる。つまり中央政府は、住民の把握において、このように都市と農村の双方に目のとどく人物を起用していたといえよう。

地方行政職の中で最も高位の職は、県知事代官職である。表2において、前代官 *mütesellim-i sâbık* のシェリフ・アガは資産額第一位となっている。しかも台帳作成時点で現職の代官に関する記述が見当たらないため、このシェリフ・アガの資産額が表2における代官職の平均資産額に相当することになる。ただし表3に示したように、シェリフ・アガは実はバルケスイルの都市民ではなく、彼のチフトリキがあるキョイリュ・キョイ村の住民として登録されている。⁽⁵⁴⁾ ウズンチャルシユルによれば、シェリフ・アガはバルケスイル郡の東南に接するビガディチ郡出身で、トプカプ宮殿の門衛長官^{カクジュ・パシユ}待遇の地方名士であった。⁽⁵⁵⁾ 台帳に見る限り、シェリフ・アガは村を拠点として、バルケスイル都市随一の資産を築き、代官職を手に入れたことがわかる。さらに表3に示したようにシェリフ・アガの兄弟が所有するチフトリキも確認されることから、シェリフ・アガの家系がバルケスイルの都市および農村に経済基盤を築き挙げた有力な地方名士であることは明らかである。⁽⁵⁶⁾ このシェリフ・アガに資産額において対抗するのが、ギリーディー・ザーデ家である(表3参照)。ギリーディー・ザーデ家のヤークブ・ベイは都市に住む商人として、またその兄弟で先に述べた時計台を建てたメフメト・パシャはバルケスイルに隣接するハラルジャ村に住み、莫大な資産を形成していたことがわかる。バルケスイル郡内でも資産額においてぬきんで高い数値を示すこのギリーディー・ザーデ家とシェリフ・アガとは、バルケスイルきつての地方名士家系であったといえよう。

表2から、宗教・教育関連職および行政関連職の平均資産額をみると、決して低くないことがわかる。ワクフ管理人、

修道僧、長老、夜警などを除けば、半数は平均値かあるいは平均をはるかにこえる資産を所有していることがわかる。同時に、多くの場合、彼らは公務についているという理由で免税扱いをうけていることを忘れてはならない。すなわち、前述した「ムフティにしてマドラサ教授」や「商人にしてジュルナル」である人物は、バルケスイル都市社会において経済力と社会的地位とを確立したいいわゆる地方社会の指導者であり、このようなムフティ、書記、ジュルナルなどが都市行政を担っていたのである。

四 バルケスイルのアバ産業

次に、都市の職業構成の中で商工業に従事する人々について分析を行なうが、そのなかでもとくにバルケスイル地方の伝統産業であったアバ産業に焦点をあてる。

(一) アバ産業

バルケスイル地方に伝統的な産業といえば、皮革業および織物産業が挙げられ、その中でもとくにアバ産業が大きな発展をとげた。⁽⁵⁷⁾ 目の粗い毛織物であるアバの生産は古くからバルケスイル地方に根付いた産業であった。

オスマン帝国においてアバは、すでに一七世紀にイスタンブールの帝国造船所で働く囚人や受刑者の衣服用に生産されていた。⁽⁵⁸⁾ ただし、その当時にバルケスイルで生産されたアバが実際に帝国造船所でアバとして使用されていたかどうかについては明らかではない。もともと一七世紀から一八世紀初頭にかけてのバルケスイル法廷記録においてアバ商に関する情報は少なく、アバ商の同業者集団は一七世紀末まではいわゆるギルドとしては組織化されておらず、ようやく一八世紀の後半になって組織化されたことが指摘されている。⁽⁵⁹⁾ 一七七四／七五年の法廷記録には、バルケスイルにおけるアバ商ギル

ド長とアバ^{ダイシンキチ}仕上げ職人ギルド長との対立について言及されている。⁽⁶⁰⁾毛糸で織られたアバは、アバ商からいったんアバ仕上げ職人の手に渡され、仕上げ機でたたかれてフェルト状にされた後、再びアバ商の手へ返された。したがって一八世紀の後半には、アバ産業における分業およびギルドの組織化、さらには権力争いがすでに始まっていたことを窺うことができるのである。

ところで先に述べたように一八二六年のイエニチエリ軍団の廃止および「ムスリム常勝軍」と呼ばれた新帝国軍隊の創設に伴い、ヨーロッパ式軍服の採用が決定された。そのため軍服に使われる生地が必要が急増し、とくに冬服に使用されたアバは、バルカン地域ではプロヴディフ、スリヴェン、コテル、パザルジクなどで、アナトリアではバルケスイルで生産された。例えば、雨着用のアバ生産においてバルケスイルに対して計画された生産量は一八三五年には総需要量の三分の一におよんでいた。⁽⁶¹⁾

これに関連してキュテュクオウルは次のような興味深い事例を紹介している。⁽⁶²⁾すなわち一八四二年にバルケスイルのアバ生産の責任者であった県知事のシェリフ・アガが不正を行ない、質が悪いアバに高価な値をつけた。そのため当局が審査を行なった結果、より良質の製品を安く生産するようという決定を下し、シェリフ・アガは罷免された。これをうけて調査のためにバルケスイルに赴いた千人隊長のアフメト・エフェンディは、当時一時的に公務を追われてバルケスイルで野に下っていたギリイデー・ザーデ・メフメト・ベイと面会し、見本として高質でかつ安価なアバが生産されうることを知った。この結果、アバの生産の任務と県知事職とがメフメト・ベイに授与されたのだった。

以上がキュテュクオウルが紹介した史料の内容であるが、ここに述べられた不正を働いた代官シェリフ・アガとは前述したように『資産台帳』に記載された平均資産額第一位の前代官である。他方、復権したギリイデー・ザーデ・メフメト・ベイもまた前述した時計台を造った人物である。メフメト・ベイは、かつてロシア戦役で戦功をあげた実績とは対照的に、一八三二年に命を受けた、イブラヒム・パシャ率いるエジプト軍との戦いでは敗退した。その結果、メフメト・ベ

イは、一八三三年から四二年までの十年間、公職を追われていたとウズンチャルシユルは指摘している。⁽⁶³⁾ メフメト・ベイは、辛酸をなめていたとはいえ、兄弟のヤークブ・ベイと共有してアバ店をはじめとする種々の不動産を所有し、農村ではチフトリキ経営を行ないながら、都市および農村に経済基盤を確立し、再起の時をうかがっていたのではないだろうか(表3参照)。文字どおり雌狀十年にして、メフメト・ベイは、当時のバルケスイルにおける基幹産業であったアバ生産の頂点にたったといえよう。したがってこの事例に、服装改革によって発展したアバ産業とその取り引きをめぐる二大地方有力者の利権争いの構図が映し出されていると解釈できる。

さて、軍隊における服装改革によってバルケスイルで生産された製品はアバであったが、実際にアバを生産する際には、毛糸が用いられる。とくにアバを柔らかく、高質な製品に仕立てるために、生きている羊から八月に刈り取られる毛糸と「皮なめし職人の毛糸 *debbāḡ yünü*」との混紡毛糸が使われた。キュテクオウルによれば、家畜が屠殺された後に刈り取られる毛糸は「食肉ギルド長の毛糸 *kasabbaḡ yünü*」と、皮なめし工房で化学的に処理されたものは「皮なめし職人の毛糸」と呼ばれた。⁽⁶⁴⁾ つまり、アバ生産にはたんにアバ商のみならず、肉屋およびとりわけ皮なめし職人もかかわっていたことが理解される。このようにして、バルケスイルで生産されるアバに必要な七五〇〇反分の毛糸を確保するために、バルケスイル県をはじめ、サルハン県、ブルサ県、キュタヒヤ県などの周辺地域もまた毛糸の生産割り当ての対象となっていた。⁽⁶⁵⁾

以上のキュテクオウルによる考察から、軍隊における服装改革によって、アナトリアではバルケスイルがアバ生産の拠点となり、一八三〇年代から四〇年代にかけて周辺地域もアバ生産にかかわる毛糸生産地として分業体制に組み込まれていったことがわかる。そして当然のことながら、羊毛を確保する必要上、周辺地域の遊牧民や農民もまた、いわゆるマニフアクチュアの波に巻き込まれていったと思われる。⁽⁶⁶⁾ そこで次に『資産台帳』にみられるアバをめぐる諸事項を検討してみよう。

(二) 『資産台帳』にみるアバ生産

『資産台帳』における商工業者の平均資産額は表2のとおりである。

さて、表2で業種別に職業を示したが、上に述べた事情を考慮すれば、アバ産業にかかわる職業としてはアバ商、皮なめし職人、アバ^デ仕^{イン}上げ^キ職^チ人、肉屋、そして商人が挙げられる。このうちアバ仕上げ職人は、わずか三人しか確認されないが、彼らは肉体労働者で資産もわずかであることがわかる。アバ仕上げ職人以外の職種をみると、肉屋の平均資産額は平均値より低く、皮なめし職人のそれは平均値をやや下回る程度であることがわかる。ここで特徴的なことは、アバ商、アバ商ギルド長、アバ仕上げ職人、肉屋については平均資産額よりも平均収入額の方が高いことである。つまり彼らは何らかの手段で現金収入を得ていたと考えられる。ただし、『資産台帳』には例えばアバの反物数あるいは毛糸の重量といった生産量や、それらの売り上げによる収入かどうかに関する情報は一切記載されていない。

ところで生薬商および軍人の資産項目のなかにもアバ仕上げ機 *aba dingi* が記述されている例がある。アバ仕上げ機とは、アバをフェルト状にするために使われる仕上げ用の道具である。都市民の資産として記されたアバ仕上げ機は三基のみであるが、農村部へ目をむけてみると、アバ仕上げ機を資産として所有する村民が存在する。例えばバルケスイルから南に四キロほど下ったタシュ・キヨイ村では、一八戸中五戸がアバ仕上げ機を所有している。⁽⁶⁷⁾これはアバ産業が家内工業のかたちで農村へ浸透していることを物語る現象といえる。アバ仕上げ機の評価額は一基につきおよそ七五〇クルシュで、これは荷馬約二頭分にあたる。今日のタシュ・キヨイ村に住む村びとは、一九五〇年代を境にアバ生産がタシュ・キヨイ村では行なわれなくなったと筆者に語ってくれた。戸数九戸のダー・バユンダル村でも二戸がアバ仕上げ機を所有しているが、その評価額は記載されていない。アバ産業を物語る情報は『資産台帳』に限っていえば、ここまでである。ただし、当時政府主導で生産が行なわれていたアバ産業が農村へも大きな影響を与えていたことが、アバ仕上げ機が農民によって

所有されていたことによつて明らかとなった。

次に、アバ産業にも関わつていた皮なめし業に目を転じてみたい。表2を見ると、川沿いの地域である街区③、⑦、⑩、⑫に皮なめし職人が集中していることがわかる。これは皮なめし作業に水が必要とするためであり、川沿いの地域に皮なめし職人が多いことは一八世紀初頭でも確認されている。この中で街区③および⑦に住む皮なめし職人の多くは皮なめし業の免許状をもっている。街区⑩および⑫の皮なめし職人は、街区③および⑦の職人に比べて免許状所有率が低い。つまり皮なめし職人の多くは皮なめし職人の免許状をもっているが、もっていない者もいるのである。また他の職種のも者で皮なめし工房の免許状をもっている者もいる。

そもそもゲディツキとは商工業たちギルド内で認められたライセンスである。一八世紀には、免許状を所有しないものは店を開いて手工業を行なうことはできなかったと考えられている。⁽⁶⁸⁾そして免許状は一くち、あるいは二分の一、四分の一、八分の一くちなどに分割されて所有される場合もあった。またこの免許状は権利として売買され、例えば借金を抱えたものは、免許状を売つて借金の返済にあてることもできた。『資産台帳』においてゲディツキと記されたものほとんどは「皮なめし工房の免許状 *Debbaghâne gedîğî*」と表記されており、この評価額は一くちあたり五〇クルシュであった。

各商人は、彼ら自身と地方自治体当局との関係をとるもつ商人の代表者であるギルド長を選出した。『資産台帳』において、アバ商ギルド長 *Abacıları kethüdâsı* は「ケトヒュダー」⁽⁶⁹⁾と記され、同時にこの人物は街区④のモスクの導師でもある(表3参照)。彼の資産としては、一一・五ドニユムの耕作地、半ドニユムのぶどう畑そして店舗などが確認される(表3参照)。まさに「聖」と「俗」とを兼ね備えた、オスマン社会においてはごく一般的にみられる地方有力者といえよう。表2から、アバ商ギルド長の資産および収入はやはり平均を大きくうわまわっており、経済力を持った人物であることがわかる。しかも、アバ商ギルド長は導師でもあるため免税扱いとなっている。

表2に示された情報から次のようなことが指摘されよう。アバ商三六戸の資産額は全職種の平均値よりも高く、収入も

平均値の二倍弱におよぶ。さらに皮なめし職人一一九戸の資産額は全職種の平均値よりもわずかに低く、収入は平均値を上まわっている。つまりこれらの職種に従事する人々は相対的に現金収入が多いといえるであろう。アバの具体的な生産・流通過程に関する情報は『資産台帳』には記されていないが、恐らくバルケスイルのアバはこのような職種の人々および肉体労働者によって生産され、アバ商ギルド内の検査を経て、仲買商人あるいは生地商などの手によって流通していったのではないかと推察される。いずれにせよ中央からのバルケスイルに対するアバ製品の割り当てにしたがって、アバ商ギルド組織は製品の質を維持し、価格を統制しながら、指定された数量の製品を確保する役割を担っていたと考えられる。

六 結論と今後の展望

一八四〇年の『資産台帳』にもとづいてバルケスイルの都市社会とアバ産業に関わる諸相を分析した結果、次の三点が指摘できる。第一に、これまで明らかにされてこなかった一九世紀中葉バルケスイルの内部構造が明らかにされた。旧来の都市の中心部は商業の中心地としての機能を依然として保持する一方、都市は南へと拡大し、一八二八年前後に建てられた時計台周辺が新たな行政府の中心になりつつあった。このことはアバ産業の発展による労働力需要の増加によって、周辺村から町への人口流入を招いたことに起因していると思われる。このような現象は、例えば免許状を所有していない皮なめし職人の存在となって現われ、そのことが皮なめし業ギルドの弛緩をもたらしたのではないだろうか。

第二に、バルケスイル地方が新軍隊のヨーロッパ式軍服に使用するアバ生産地に指定され、中央の政策に直結した結果、バルケスイルにおけるアバ産業とその商業が一段と発展したことが明らかにされた。このような社会的経済的変動のなかで、かつてのアーヤーンでいぜんとしてバルケスイルの都市および農村に経済的基盤を築いていた二大地方名士家系による、アバ産業をめぐる利権対立の構図が確認された。

第三に、アバ生産にかかわったのは都市民だけではない。アバ仕上げ機を都市民よりもむしろ周辺村の住民が所有していることが明らかにされた。このことは、マニユファクチュアの農村社会への浸透を示している。同時に、遊牧民がアバ生産に不可欠な毛糸をつむぎ、賃金を得ていたことから、遊牧民もまた労働者としてバルケスイルにおけるアバ産業の分業体制に組み込まれていたことが明白となった。

以上の考察から、本稿では一八二〇年代から四〇年代にかけてバルケスイル社会が、軍隊における服装改革によるアバ産業の発展によって大きく変わろうとしている局面の一端が明らかにされた。バルケスイルの都市民のみならず農民および遊牧民におしよせたアバ生産におけるこの大きな変動の波は、一八五三年のクリミア戦争終結を境にさらに大きな動きになっていくことが予想される。したがって本稿の結果を踏まえて、今後は財務関係文書や法廷記録などをも用いて一九世紀後半のバルケスイルにおける工業化と社会変容の過程を明らかにしていくことにしたい。

- (1) 例へば Şevket PAMUK, *The Ottoman Empire and European Capitalism, 1820-1913 : Trade, Investment and Production*, Cambridge, 1987, xii+278p. Reşat KASABA, *The Ottoman Empire and the World-Economy: The Nineteenth Century*, Albany, 1988, xii+191p.
- (2) Donald QUATAERT, *Workers, Peasants and Economic Change in the Ottoman Empire 1730-1914*, Istanbul, 1993, xv+203p.; id.ed., *Manufacturing in the Ottoman Empire and Turkey, 1500-1950*, Albany, 1994, 175p.
- (3) 永田雄三「第一章 タハスヤター」『トルコの社会と経済』アジア経済研究所 1971, pp.12-17.
- (4) Mübahat S.KÜTÜKOĞLU, *Osmanlı İktisadî Yapısı, Osmanlı Devleti ve Medeniyeti Tarihi cilt 1 Devlet ve Toplum*, Ekmeleddin İhsanoğlu ed., İstanbul, 1994, pp. 639-650.
- (5) Tevfik GÜRAN, *Tanzimat Döneminde Devlet Fabrikaları, 150. Yılında Tanzimat*, Hakkı Dursun Yıldız ed., Ankara, 1992, pp.235-257.
- (6) QUATAERT, *The Age of Reforms, 1812-1914, An Economic and Social History of the Ottoman Empire 1300-1914*, Halil İnalcık & Donald Quataert eds., Cambridge, 1994, p.889.

- (7) KÜTÜKOĞLU, *Asâkir-i Mansûre-i Muhammed-iyye Kiyâfeti ve Malzemesinin Temini Meselesi, Doğumunun 100. Yılında Atatürk'e Armağan (ayrı basım)*, İstanbul, 1981, p.550.
- (8) QUATAERT, *The Age of Reforms, 1812-1914*, p. 899, p.932.
- (9) イスラム総理府オスマン古文書局所蔵 BOA. ML. VRD.TMT No.7225, 7226, 7227, 7228.
- (10) 林佳世子「トルコ」羽田正・三浦徹編『イスラム都市研究 [歴史と展望]』東京大学出版会 1991, pp.163-216.
- (11) İsmail Hakkı UZUNÇARŞILI, *Karasi Vilayet Tarihçesi*, İstanbul, 1922 / 23, 144p. 同ハスハサヤルハコルがまとめた『カレスイ名士録』については再版された現代トルコ語版(*Karasi Meşâhiri*, Sadeleştiren; cilt 1 Mehmet İnce; cilt 2-3 Mehmet Durak, Balıkesir, 1991-1992)を参照した。
- (12) Kâmil SU, *Balıkesir ve Civarında Yürük ve Türkmenler*, İstanbul, 1938, xiii+188p.
- (13) SU, *XVII ve XVIIIinci Yüzyıllarda Balıkesir Şehir Hayatı*, İstanbul, 1937, 132p.
- (14) 『タハスハ Kaynak』は 1933 年に創刊された月刊誌。
- (15) Muharrem EREN, *Zağnos Paşa*, Balıkesir, 1994 (İlaveli baskı), 267p 例へば Mustafa SALMAN

の *Balıkesir Tarihi, Coğrafyası*, Balıkesir, 133+9p は、発行年の記載がないが、周辺村で歌われている民謡の歌詞および楽譜や伝統的衣装などの写真も掲載されており、民俗学的に貴重な内容を含んでいる。

(16) Mücteba İLGÜREL, Balıkesir'de Âyânlık Mücadelesi, *İstanbul Üniversitesi Edebiyat Fakültesi Tarihi Enstitüsü Dergisi*, vol.3, İstanbul, 1973, pp.63-74.

(17) Raşit GÜNDOĞU, *Balıkesir Şer'iyye Sicili (4 Temmuz 1612-21 Şubat 1618)*, Marmara Üniversitesi Tarih Araştırmaları Enstitüsü Tarih Bölümü Yeniçağ Tarihi Ana Bilim Dalı (Yüksek Lisans Tezi), İstanbul, 1992 は未公開のため一部のみ参照。

(18) Aynur ÜNLÜYOL, *Şer'iyye Sicillerine göre XVIII. Asrın İlk Yarısında Balıkesir (1700-1730)*, Uludağ Üniversitesi Sosyal Bilimler Enstitüsü Tarih Anabilim Dalı (Doktora Tezi), Bursa, 1995 は未公開のため街区や村の地図を複写させていただくなど部分的に参照し、同時にエーリコヨル氏自身から多くの御教示をいただいた。

(19) KÜTÜKOĞLU, Asâkir-i Mansûre-i Muhammediyye Kıyâfeti ve Malzemesinin Temini Meselesi, pp. 519-605.

(20) KÜTÜKOĞLU, *ibid.*, pp.550-558.

(21) QUATAERT, The Age of Reforms, 1812-1914, p. 899. とはいえ別の史料では、この工場が一八六〇年代にお

いてもなお操業していたことをカータルトは指摘している (*ibid.*, p.929)。

(22) ムタフは、ハレメインと呼ばれる遊牧集団に関して次のように述べている。彼らは、毛糸紡ぎと綿布の織物技術もついていたために、軍隊に必要とされた毛織物の製造を行ない、そのためにバルケスイルには毛織物工場が建てられた。この仕事の代償として彼らは免税扱いを受け、織物そのものが「ハレメイン税」という名で納められた (Abdül-mecit MUTAF, *Salnâmelerde Karesi Sancağı (1847-1922)*, Balıkesir, 1995, p.122)。

(23) QUATAERT, The Age of Reforms, 1812-1914, p. 900, p.932.

(24) 一九世紀後半になるとオスマン帝国では地方別や組織別の『年鑑』と呼ばれる史料が出版されるようになる。バルケスイルに関する『年鑑』は、A・ムタフによって『年鑑にみるカレスイ県』(MUTAF, *op. cit.*, 212p.) が整理された。その他に19世紀後半のバルケスイルに関する同時代史料としてはフランス人旅行家のクイネによる旅行記 (Vital CUINET, *La Turquie d'Asie : géographie administrative statistique descriptive et raisonnée de chaque province de l'Asie-mineure*, Paris, 1894, pp.247-299) が参考になる。

(25) 永田雄二・永田真知子「18・19世紀ボスニア地方の人びと」『東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究』四

- 六・四七合併号、1994, pp.437-473. 本稿で扱った職業名の邦訳は主としてこの論考を参照した。また各職業の詳細は一七世紀の公定価格を分析した KÜTÜKOĞLU ed., *Osmanlılarda Narh Müessesesi ve 1640 Tarihli Narh Defteri*, 1983, İstanbul, xx+436p を参照せたい。
- (26) 筆者が参照した『資産台帳』研究は以下のとおりである。Arzu TOZDUMAN, *Aydın Güzelhisarı'nın Sosyal ve İktisadî Durumu* (1844), İstanbul Üniversitesi Sosyal Bilimler Enstitüsü (Yüksek Lisans Tezi), İstanbul, 1992, xii+115p (未公開)。Said ÖZTÜRK, *Tanzimât Döneminde bir Anadolu Şehri Bilecik*, İstanbul, 1996, 238p. Kaya BAYRAKTAR, *Maliye Nezareti Temettuat Defterlerine Göre 1844 Yılında Çorlu, Silivri ve Ereğli Kazalarının Sosyo-Ekonomik Durumu*, İstanbul Üniversitesi Sosyal Bilimler Enstitüsü İktisat Fakültesi Türk İktisat Tarihi Anabilimdalı (Yüksek Lisans Tezi), İstanbul, 1996, iv+63+77p (未公開)。
- (27) 「タンスイマート改革と地方社会——一八四〇年のベルケスイル郡『資産台帳』にみる土地「所有」状況を中心に」『東洋学報』第77巻第2号、1997, pp.01-029。
- (28) 今日のベルケスイルの風土に関しては *Balıkesir : Bir Kentin Kimliği*, Ankara, 1997, pp. 74-120 を、ベルケスイルの歴史については同書に掲載された Aydın AYHAN および İLGÜREL 両氏が執筆した歴史の部分

- (pp.1-34) を、İLGÜREL, Balıkesir, *Türkiye Diyanet Vakfı İslam Ansiklopedisi cilt 5*, İstanbul, 1992, pp.12-17 および SU, *XVII ve XVIIIinci Yüzyılında Balıkesir Şehir Hayatı*, pp.5-9 を参照した。
- (29) 年間の降雨量は約六〇〇ミリメートルで、冬に雨が多い。このような自然環境および農作物の豊富さゆえに、ベルケスイルは一四世紀にはスルタンの王子の^{カニヤク}県^{カニヤク}のうちの一つであり、またイスタンブールへの食料供給地としての重要性も見落とすことができない点である (*Cumhuriyetin 50. Yılında Balıkesir 1973 İl Yıllığı*, İstanbul, 7p.)
- (30) ただしベルケスイルの『資産台帳』で対象とされているのはムスリムのみで、非ムスリムに関する台帳は確認されていない。
- (31) ÜNLÜYOL, *Şerhiye Sicillerine göre XVIII. Asrın İlk Yarısında Balıkesir (1700-1730)* に添付された地図。
- (32) 現在、「ベルケスイル」の語源になったとも言われるビザンツ時代の城壁の遺構は残っており、地図2の城壁はあくまでもかつての推定位置を示している。
- (33) Bedriye TOLUN (DENKER), *Balıkesir Ovası'nda Yerleşme ve İktisadî Faaliyetler*, İstanbul Üniversitesi Edebiyat Fakültesi Yay. No.1530. Coğrafya Enstitüsü Yay. No.59, 1970, p.71.
- (34) ベルケスイル市におけるワクフ施設に関しては AYHAN, *Eski Balıkesir'de Vakıflar, Mevlevihane ve*

Bazı Zaviyeler, *Balıkesir Ekspres Gazetesi*, 1998(3月2日号).

- (35) ザガノス・ベシヤの生涯や彼の子孫などの詳細については EREN, *Zağnos Paşa* を、特にワクフについては A. Himmet BERKİ, *İslamda Vakıf, Zağanus Paşa ve Zevcesi Nefise Hatun Vakfiyeleri, Vakıflar Dergisi*, No.4, pp.19-37. を参照された。
- (36) SU, *XVII ve XVIIIinci Yüzyılında Balıkesir Şehir Hayatı*, pp.16-17.
- (37) オスマン朝草創期のアナトリアにおいてアヒーと呼ばれた同信集団の指導者層が存在し、同時に彼らは都市生活の指導者でもあり、自治組織をもっていた。この同信集団が原型となって、16世紀初頭ごろにフトウワ(仲間)的結合からギルド的な職業集団になったと従来いわれてきた。これに対して、アヒー組織とギルドとを混同することを批判し、ギルドが支配機構と都市民との行政的接点として機能したとみなす意見もだされている。(詳細は林佳世子前掲論文, pp.173-175を参照)
- (38) 同時に「ロンジャ」はギルド組織やある種の専売を意味する場合もあった(Musa ÇADIRCI, *Tanzimat Döneminde Anadolu Kentleri'nin Sosyal ve Ekonomik Yapıları*, Ankara, 1991, p.8)。
- (39) KÜTÜKOĞLU, *Osmanlı İktisadî Yapısı*, p.607.
- (40) ベルケスイル出身ギリデー・サーデ・メフメト・

ベシヤはロシアとの戦争で勲功をあげた後のスイリストン知事時代にこの時計台を建て、時計台のために店舗をワクフ物件としたことが指摘されている(UZUNÇARŞILI, 『カレスイ名士録』第三巻, pp.25-27. Mehmed SÜREYYA, *Sicill-i Osmani* 4, İstanbul, 1996, pp.1051-52) またその時計はベルカンから故郷へもち帰ったものであったとムタフは述べている(MUTAF, 『年鑑にみるカレスイ県』 p. 59)。時計台は一八九七年にベルケスイルを襲った地震によって完全に崩壊したが、一九〇一年に県知事オメル・アリー・ベイによって今日まで残る時計台として再建された(MUTAF, *Tarihi Eserleriyle Balıkesir*, Balıkesir, 1997, p.78-79)。

- (41) Sevgi AKTÜRE, *Osmanlı Devleti'nde Taşra Kentlerindeki Değişimler, Tanzimat'tan Cumhuriyet'e Türkiye Ansiklopedisi vol.4*, İstanbul, 1985, pp.896-899. なお、この説明の中で例としてベルケスイルの時計台の写真が添えられている。
- (42) *Balıkesir : Bir Kentin Kimliği*, pp.40-41. 時計台の敷地にある建物は現在は旧市庁舎と呼ばれ、市の博物館として一般に公開されている。
- (43) KÜTÜKOĞLU ed., *Osmanlılarda Narh Müessesesi ve 1640 Tarihli Narh Defteri*, p.76.
- (44) 史料では vergü-i mahsûsa あるいは sâlyâne と記されたこの税を、筆者は便宜的に「資産税」とよんでいる。

その理由は、この税が必ずしも収入に対して一定率の税であると定義できないことと、用語としても「テメツテュ税」とは呼ばれていないためである。キュテュクオウルも、この税額と収入との間の率は一定ではないため、この法則性のなさが考慮されて、その後新たな計算方法がオスマン政府にとって必要とされたことを指摘している (KÜTÜK - OĞLU, Osmanlı Sosyal ve İktisadî Tarihî Kaynaklarından Temettü Defterleri, Belleten, Vol. 59, No. 225, 1995, p.411-412.)

(45) 時計台を建てたギリイデー・ザーデ・メフメト・アガの兄弟である。

(46) この点については、ユンリュオル氏のご教示による。

(47) AYHAN, Balıkesir'de Bazı Eski Yer İsimleri, Balıkesir Ekspres Gazetesi, 1997 (12月16日号)。

(48) TOZDUMAN, Aydın Güzelhisan'ının Sosyal ve İktisadî Durumu (1844), p.51.

(49) 職業名が記された就労者は一二五八戸であるが、二つの職業に従事する者が三七戸いるため、職業構成の対象戸は延べ一二九五戸とした。都市民の職業分類については、主として一八四五年のアイドゥン・ギュゼルヒサル市の『資産台帳』に関するトズドゥマンの前掲論文を参考にした。なお、(C) 農業に従事する農民に関してはすでに拙稿「タンズイマート改革と地方社会」において考察をおこなった。また紙幅の関係上、本稿では (D) その他に関する考察は

割愛する。

(50) タンズイマート改革期の税制改革については、拙稿「タンズイマート改革期におけるトルコ農村社会—土地法改正と行政・税制改革—」『オリエント』第38巻第1号、1995, pp. 61-78を、一八四〇年当時の地方行政組織の詳細は、İlber ORTAYLI, Tanzimattan Sonra Mahalli İdareler (1840-1878), Ankara, 1974, pp.14-16を参照。

(51) ÇADIRCI, Tanzimat Döneminde Anadolu Kentlerinin Sosyal ve Ekonomik Yapıları, p.232.

(52) ÇADIRCI, *ibid.*, p.48.

(53) 永田雄三・永田真知子「18・19世紀ボスニア地方の人々」p.453.

(54) そのため前代官シェリフ・アガを都市民の戸数には含まなかった。バルケスイル農村部の台帳は BOA. ML. VRD. TMT. No. 7227.

(55) シェリフ・アガは一八五三年にバルケスイル県知事職についている。したがってシェリフ・アガは、一八四〇年の資産調査以前にすでに代官職に就いていたことになる (UZUNÇARŞILI, 『カレスィ名士録』第三巻 p.18, M. SÜREYYA, Sicill-i Osmanî 5, İstanbul, 1996, pp.1591)。

(56) アーヤーンの経済基盤については、Yüzo NAGATA, Tarihîte Âyetler: Karasmanogulları Üzerinde bir İnceleme, Ankara, 1997, pp. 59-163を参照。

(57) İLGÜREL, Balıkesir, p.14.例えば一七世紀中葉のバ

ルケスイルにおける公定価格を示した史料にも「アバ」が記されている (KÜTÜKOĞLU ed., *Osmanlılarda Narh Misesesi ve 1640 Tarihli Narh Defteri*, p.38)°

(85) İdris BOSTAN, *Osmanlı Bahriye Teşkilatı: XVII. Yüzyılda Tersâne-i Âmire*, Ankara, 1992, pp.250-252.

(86) SU, Balıkesirde Eski Tarihlerde Abacılık, 『カンナク』, 50, 1937, pp.33-37.; id. *XVII ve XVIIIinci Yıyılarda Balıkesir Şehir Hayatı*, p. 47.

(89) SU, *ibid.*, pp. 47-50. 「デインキチ Dinkçi」には米を脱穀する者という意味もある。ただし、スウによる説明から「デインク」とは毛織物をフェルトにするための加工において使用する仕上げ機であることがわかる。一八世紀末にはすでに「デインキチ」のギルドが存在したことが、後述する「アバ・デインギ aba dingi」という仕上げ機の存在さらにはアイハンが「デインキチ」はアバの仕上げ機であり、「デインキチレル」という名の街区⑮では、この仕上げ作業がなされていたと指摘している (AYHAN, Balıkesir'e Ait Eski Bazı İsmiler ve Bilgiler, *Balıkesir Ekspres Gazetesi*, 1998 (2月5日号) などから考えて、本稿では「デインキチ」を「アバ・デインギ」と呼ばれる道具を使ってアバ仕上げ作業を行なう職人の意味に解釈した。

(90) KÜTÜKOĞLU, Asâkir-i Mansûre-i Muhammed-iyye Kuyafeti ve Malzemesinin Temini Meselesi, pp.550

-551.

(92) KÜTÜKOĞLU, *ibid.*, pp.552-553.

(93) UZUNÇARŞILI, 『カニスイ名士録』第三巻, p.26. Lütfi, *Tarih*, cilt 4, İstanbul, p. 14.

(94) KÜTÜKOĞLU, *ibid.*, pp.553-554. ただし、「皮なめし職人の毛糸」は生きた羊の毛糸ではなく、同時に化学的に処理されているために実際には上質な毛糸ではなく、少し強いにすぎないビュテュクオウルは述べている。

(95) KÜTÜKOĞLU, *ibid.*, pp.554-556.

(96) アイドウン・ギュゼルヒサル市では「アバ商 (九戸) より、絹織物商 (二戸) の方が多いことが確認される TOZDUMAN, Aydın Güzelhisari'nin Sosyal ve İktisadi Durumu (1844), p. 50.

(97) BOA. ML. VRD. TMT. No. 7227.

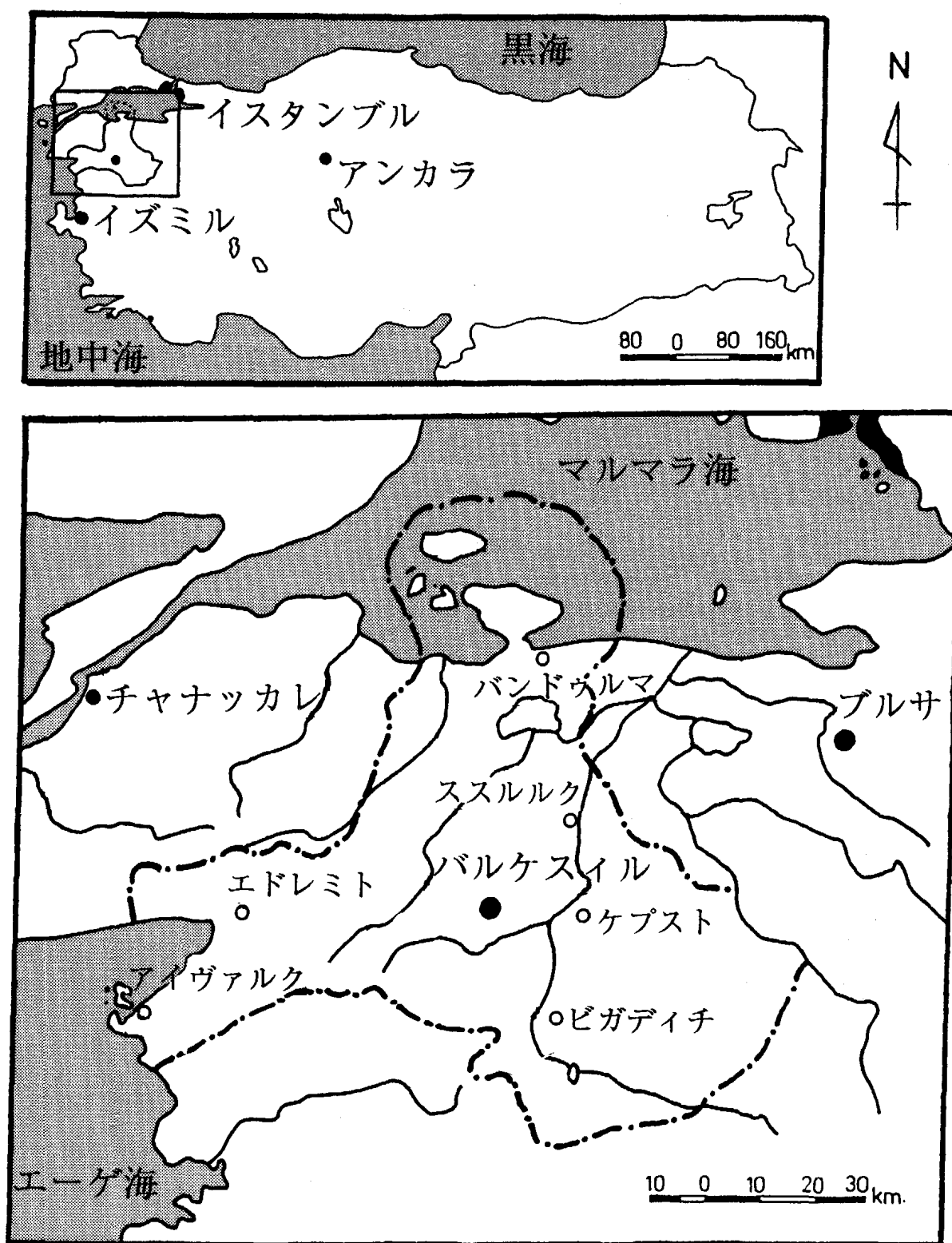
(98) KÜTÜKOĞLU, *Osmanlı İktisadi Yapısı*, p.611.

(99) さらに地方によつては「ギルド長を「ケトヒュダー」ではなく「シェイフ」と呼んだ地方もあった。また、雑貨屋ギルド長を「パザル・バシユ」、「肉屋のギルド長を「カサプ・バシユ」、「皮なめし業者のギルド長を「アヒー・バシ」ともなど、職種によつては特有の呼び名があったとチャドルジュは述べている (ÇADIRCI, *Tanzimat Döneminde Anadolu Kentlerinin Sosyal ve Ekonomik Yapıları*, p. 123)°

〔補記〕 本稿は、文部省科学研究費（創成的基礎研究）「現代イスラーム世界の動態的研究（略称イスラーム地域研究）」（研究代表者佐藤次高 平成九―一三年度）による研究成果の一部である。筆者は総括班研究協力者として、一九九七年九月から一〇月にかけておこなわれた第四班（代表者岡部篤行）の調査旅行に参加し、バルケスイル近郊の農村を訪ねることができた。同時にバルケスイル郡の『資産台帳』の解読および史料収集にあたり、イスタンブール総理府オスマン古文書局の関係各位をはじめ多くの現地の方々のご助力をいただいた。特に Halil SAHİLLİOĞLU, İhan ŞAHİN, Mübahat S.KÜTÜKOĞLU, Mütעהa İLGÜREL の諸先生、Arzu (Tozduman) TERZİ, Aynur ÜNLÜYOL, Muharem EREN 氏に心から感謝の意を表したい。さらに本稿を執筆するにあたってご教示下さった永田雄三先生および三浦徹先生に深く感謝いたします。

（お茶の水女子大学非常勤講師）

地図1 現在のバルケシル県境



(Balıkesir Bir Kentin Kimliği, p.77より作成)

地図2 バルケシルの都市街区 (1840年)



街区

- | | |
|---------------|-----------------------------|
| ①マルトル | 8 オクチュカラ・モスク |
| ②イエニジェ | 9 (アヒー・メフメド・アヒー・ムスタファ・メスジド) |
| ③ハジュ・イスマイル | 10 シエイフ・リュトフッラー・モスク |
| ④ミールザー・ベイ | 11 カラ・オーラン・モスク |
| ⑤カラ・オーラン | 12 ディンキチレル・モスク |
| ⑥ムスタファ・ファキーヒ | 13 ボレキチレル・モスク |
| ⑦オクチュカラ | 14 マルトル・モスク |
| ⑧サフニ・ヒサル | 15 イェシルリ (エスキ・クユムジュラル) ・モスク |
| ⑨ボレキチレル | 16 ミールザー・ベイ・モスク |
| ⑩オルチュガーズイー | 17 ハジュ (シャームル) ・イスマイル・モスク |
| ⑪アリー・ファキーヒ | 18 オルチュガーズイー・モスク |
| ⑫エスキ・クユムジュラル | 19 ウムール・ベイ・モスク |
| ⑬ウムール・ベイ | 20 エルディレキ・モスク |
| ⑭シェイフ・リュトフッラー | 21 ファトマ・スルタン・マドラサ・モスク |
| ⑮セラーハッディン | 22 (イーネジ・メスジド) |
| ⑯カサブラル | 23 (ホジャ・スイナン施設群) |
| ⑰ディンキチレル | 24 (バルム・スルタン修道場) |
| ⑱ハジュ・ガーイビー | 25 (チュナルルテキイエ修道場) |
| ⑲イズミルレル | 26 (ボスタン・チャウシュ・マドラサ) |
| ⑳ハジュ・イスハク | 27 (イリヤス・バシャ・ハーン) |
| | 28 (ハードウム・マフムト・アガ・ハーン) |
| | 29 <キョプリュバシュ・メスジド> |

施設

- | | |
|---------------------|---------|
| 1 ユルドゥルム・バヤズイット施設群 | |
| 2 ザガノス・バシャ施設群 | |
| 3 カヤベイ・モスク | 30 時計台 |
| 4 イブラヒムベイ・モスク | 31 旧市庁舎 |
| 5 ハジュ・アリー・モスク | |
| 6 テュルベ (カウクチュ) ・モスク | |
| 7 カサブラル・モスク | |

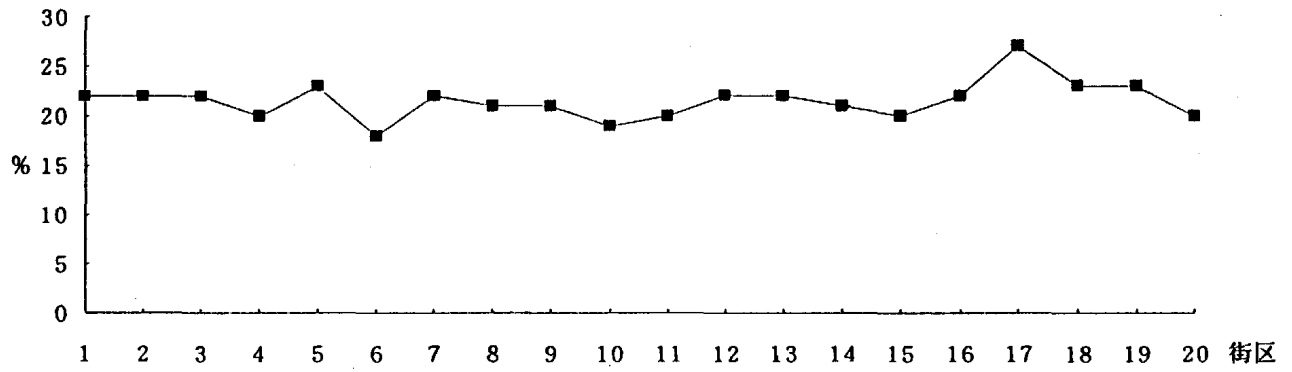
() はユニリュオル作成の18世紀前半の地図にある名称
 < > はユニリュオル作成地図にはなく、『資産台帳』にのみ確認される施設

* Aynur ÜNLÜYOL, *Şerhiye Sicillerine göre XVIII. Asrın İlk Yarısında Balıkesir (1700-1730)*, Bursa, 1995 (未公刊) の添付地図に基づいて作成

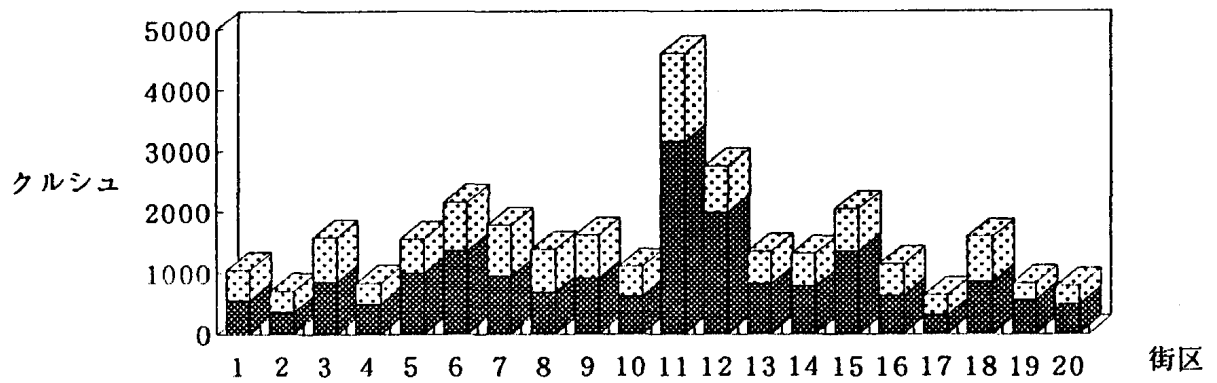
表1 街区別資産構成

	街区名	全戸数	男性戸	個人番号	不動産	不動産/戸	家畜	家畜/戸	資産/戸	収入	収入/戸	税額	税額/戸
1	Marlı	140	128	278	59674.5	426.25	17618	125.84	552.09	69380	495.57	14963.5	106.88
2	Yenice	38	34	76	10605.0	279.08	2897	76.24	355.32	12970	341.32	2808.0	73.89
3	Hacı İsmail	77	73	173	40402.5	524.71	25098	325.95	850.66	55300	718.18	12410.0	161.17
4	Mirzabey	58	53	92	15570.0	268.45	13095	225.78	494.22	19500	336.21	3816.0	65.79
5	Karaoğlu	95	92	196	79477.0	836.60	14755	155.32	991.92	53350	561.58	12425.0	130.79
6	Mustafa Fakih	80	77	134	71886.5	898.58	37175	464.69	1363.27	63965	799.56	11666.0	145.83
7	Okçukara	47	47	103	35448.0	754.21	8686	184.81	939.02	39250	835.11	8725.0	185.64
8	Sahn-ı Hisar	120	113	218	62062.0	517.18	19471.5	162.26	679.45	83160	693.00	17546.0	146.22
9	Börekçiler	48	46	94	35895.5	747.82	7537	157.02	904.84	33690	701.88	7120.0	148.33
10	Oruçgazi	128	114	208	46643.0	364.40	31035	242.46	606.86	63250	494.14	11884.5	92.85
11	Ali Fakih	1	1	1	2090.0	2090.00	1050	1050.00	3140.00	1450	1450.00	288.5	288.50
12	Eskikuyumcular	54	52	97	92602.0	1714.85	14504	268.59	1983.44	40950	758.33	9026.0	167.15
13	Umurbey	58	54	107	34194.5	589.56	12178	209.97	799.53	31070	535.69	6868.0	118.41
14	Şeyh Lütfullah	66	65	115	36933.5	559.60	13183	199.74	759.34	35400	536.36	7554.0	114.45
15	Salahaddin	96	91	205	102325.5	1065.89	25254	263.06	1328.95	68150	709.90	13673.0	142.43
16	Kassâblar	167	157	332	65505.0	392.25	36168	216.57	608.82	85851	514.08	18591.0	111.32
17	Dinkçiler	100	84	170	20341.0	203.41	8733	87.33	290.74	33115	331.15	8830.0	88.30
18	Hacı Gaybi	39	35	83	22940.0	588.21	9992	256.21	844.41	28450	729.49	6540.0	167.69
19	İzmirliler	69	67	122	22544.0	326.72	14343	207.87	534.59	18950	274.64	4290.5	62.18
20	Hacı İshak	81	79	144	20425.0	252.16	16295	201.17	453.33	25000	308.64	4769.0	58.88
		1562	1462	2948	877564.5	561.82	329067.50	210.67	772.49	862201	551.99	183794.0	117.67
*資産とは不動産および家畜の評価額の合計をさす。								*平均値を導いた戸とは各街区の全戸数を意味する。					
								*全数値は各戸の項目に記された数値を優先した。					

グラフ 1 - A 収入に対する税額の割合



グラフ 1 - B 平均資産および収入合計



		職	業	別	集	計		
不動産	家畜	収入	税	不動産/戸	家畜/戸	資産/戸	収入/戸	税/戸
475.00	55.00	0.00	0.00	475.00	55.00	530.00	0.00	0.00
45.00	0.00	400.00	83.00	22.50	0.00	22.50	200.00	41.50
3425.00	500.00	0.00	0.00	1141.67	166.67	1308.33	0.00	0.00
33215.50	4821.00	3200.00	255.00	922.65	133.92	1056.57	88.89	7.08
95.00	280.00	325.00	65.00	95.00	280.00	375.00	325.00	65.00
6042.00	140.00	0.00	0.00	2014.00	46.67	2060.67	0.00	0.00
150.00	0.00	400.00	83.00	150.00	0.00	150.00	400.00	83.00
10760.00	2492.00	0.00	0.00	896.67	207.67	1104.33	0.00	0.00
5360.00	1330.00	1350.00	71.00	595.56	147.78	743.33	150.00	7.89
3615.00	702.00	0.00	0.00	1807.50	351.00	2158.50	0.00	0.00
1725.00	300.00	0.00	0.00	1725.00	300.00	2025.00	0.00	0.00
0.00	0.00	750.00	0.00	0.00	0.00	0.00	750.00	0.00
1086.00	0.00	0.00	438.00	362.00	0.00	362.00	0.00	146.00
12595.00	1225.50	2700.00	634.00	629.75	61.28	691.03	135.00	31.70
2497.50	210.00	0.00	2707.50	416.25	35.00	451.25	0.00	451.25
81086.00	12055.50	9125.00	4336.50	802.83	119.36	922.1930693	90.35	42.94
3784.00	500.00	2000.00	365.00	3784.00	500.00	4284.00	2000.00	365.00
5658.00	1869.00	3630.00	491.00	943.00	311.50	1254.50	605.00	81.83
5300.00	1840.00	2600.00	485.00	2650.00	920.00	3570.00	1300.00	242.50
39800.00	0.00	0.00	0.00	39800.00	0.00	39800.00	0.00	0.00
16319.00	2453.00	10925.00	2161.00	2331.29	493.29	2824.57	1560.71	308.71
100.00	175.00	500.00	0.00	100.00	175.00	275.00	500.00	0.00
200.00	170.00	900.00	210.00	66.67	56.67	123.33	300.00	70.00
71161.00	8007.00	20555.00	3712.00	3388.62	381.29	3769.90	978.81	176.76
120139.50	101919.00	144025.00	31222.50	612.96	519.99	1132.95	734.82	159.30
235.00	100.00	500.00	0.00	235.00	100.00	335.00	500.00	0.00
45839.50	9943.00	35450.00	7651.00	1697.76	368.26	2066.02	1312.96	283.37
11072.00	3399.00	13050.00	2845.00	738.13	226.60	964.73	870.00	189.67
3238.00	1344.00	2040.00	272.00	3238.00	1344.00	4582.00	2040.00	272.00
695.00	100.00	1450.00	312.00	173.75	25.00	198.75	362.50	78.00
1345.00	432.00	1950.00	428.00	672.50	216.00	888.50	975.00	214.00
420.00	0.00	500.00	130.00	420.00	0.00	420.00	500.00	130.00
25.00	0.00	300.00	113.00	25.00	0.00	25.00	300.00	113.00
8074.50	2115.00	9850.00	2408.50	504.66	132.19	636.84	615.63	150.53
63.00	0.00	250.00	82.00	63.00	0.00	63.00	250.00	82.00
540.00	50.00	750.00	165.00	270.00	25.00	295.00	375.00	82.50
3412.50	755.00	5300.00	1222.50	213.28	47.19	260.47	331.25	76.41
2196.00	950.00	5125.00	1124.00	244.00	105.56	349.56	569.44	124.89
1300.00	48.00	1300.00	331.00	650.00	24.00	674.00	650.00	165.50
355.00	35.00	250.00	83.00	355.00	35.00	390.00	250.00	83.00
50.00	50.00	850.00	173.00	50.00	50.00	100.00	850.00	173.00
605.00	950.00	2000.00	348.00	302.50	475.00	777.50	1000.00	174.00
79465.50	20271.00	80915.00	17688.00	779.07	198.74	977.81	793.28	173.41
29188.50	7895.00	38700.00	6998.50	810.79	219.31	1030.10	1075.00	194.40
1670.00	0.00	2500.00	0.00	1670.00	0.00	1670.00	2500.00	0.00
75087.00	11142.00	43250.00	8297.00	3413.05	506.45	3919.50	1965.91	377.14
1230.00	225.00	2400.00	480.00	615.00	112.50	727.50	1200.00	240.00

表2 街区別職業構成および職業別資産構成

			街					区					番					号					計
	Meslek	職業	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
A	Ders hocası	教師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	Derviş	修道僧	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	Hatib	説教師	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3
	İmâm	導師	2	2	2	0	2	4	2	3	1	4	0	1	1	1	4	2	3	0	1	1	36
宗教	İmâretçi	慈善施設管理人	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	Mu'allim-i sıbyan	初等学校教師	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3
	Muhzır	廷吏	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	Müderis	マドラサ教授	2	0	0	0	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	1	0	0	12
教育	Müezzın	礼拝告知人	1	0	0	0	1	1	1	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	9
	Müftü	法学者	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	Kayyum	モスク雑用係	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	Mütevelli	ワクフ管理人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
政	Şeyh	長老	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3
	Talebe-i dîm(u)lm	宗教学生	5	0	0	0	0	2	2	1	1	1	0	1	1	2	1	1	1	1	0	0	20
	Ulemâ	ウラマー	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	6
		A宗教・教育小計																					101
B	Jurnal	ジュルナル	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	Kabzımâl-i mahalle	街区収税吏	1	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	6
	Kâtip	書記	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	Mütesellim-i sâbık	前代官	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
行政	Muhtar-ı mahalle	街区区長	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	7
	Pâsbân	夜警	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	Zâbitada neferi	治安警官	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3
		B行政小計																					21
C	Rençber	農民、農業労働者	4	1	8	15	2	5	4	10	2	25	0	3	8	8	8	44	13	5	21	10	196
		食品製造販売																					
	Arpacı	大麦商	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	Attâr	生薬商	1	0	3	0	4	0	3	5	3	1	0	3	2	1	1	0	0	0	0	0	27
D	Bakkal	雑貨商	2	0	0	0	4	2	0	2	0	0	0	0	1	0	2	0	0	2	0	0	15
	Balcı	蜂蜜屋	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	Börekçi	ボレッキ屋	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	4
	Değirmenci	粉ひき屋	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
商	Etmekçi	パン屋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	Habbâz tablakâr	パン売り	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	Helvacı	ヘルヴァ屋	2	1	0	0	1	1	0	2	1	1	0	2	2	2	1	0	0	0	0	0	16
	Hoşabcu	コンポスト屋	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
工	Kadayıfçı	カダユフ職人	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	Kahveci	コーヒー売り	2	1	0	0	0	1	0	1	1	2	0	2	0	1	0	2	0	0	1	0	16
	Kassâb	肉屋	0	0	1	2	1	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	9
	Leblebici	炒豆屋	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	Ma'cûn satar	こう素売り	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	Nohudcu	ひよこ豆売り	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	Uncu	粉屋	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		食品製造販売小計																					102
		繊維・織物																					
	Abacı	アバ商	7	0	2	2	2	4	1	1	5	2	0	4	0	0	1	2	1	2	0	0	36
	Abacılar kethüdası	アバ商ギルド長	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	Bezâr	生地商	1	0	2	0	6	2	1	2	2	1	0	0	1	0	3	0	0	1	0	0	22
	Boyacı	染色職人	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

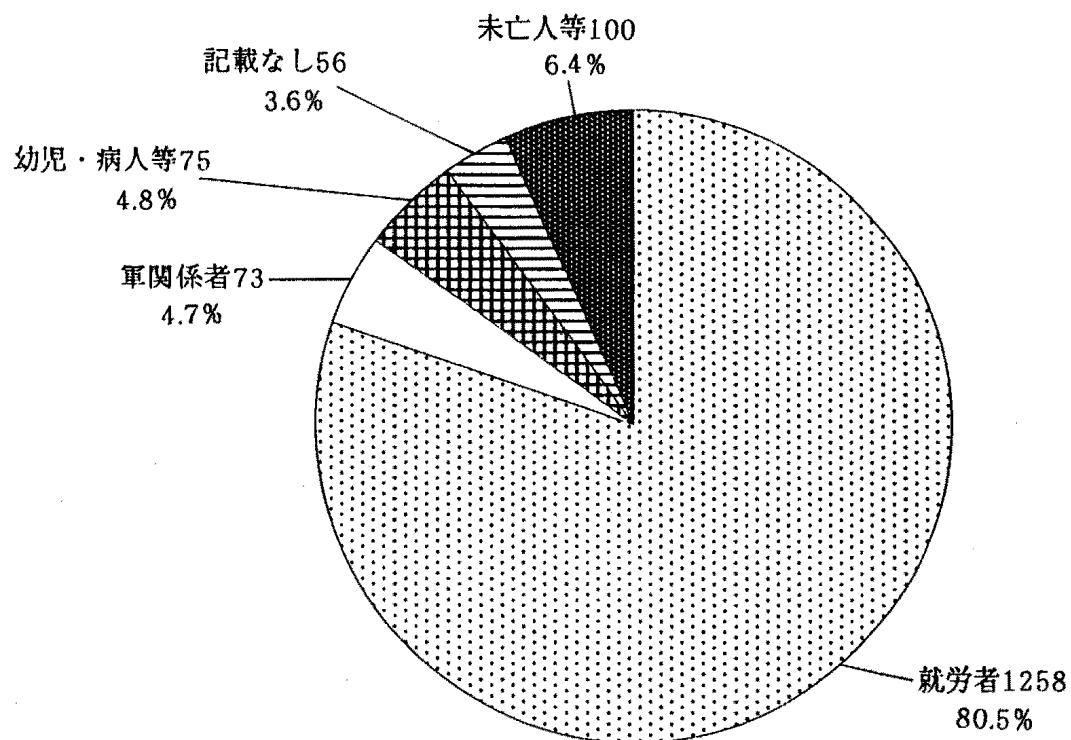
備考 左ページの街区の番号は地図2の街区名に対応し、各欄の数字は戸数を示す。

右ページは職業別の不動産、家畜、収入、税の合計額を示す。(単位はクルシュ)

不動産	家畜	職 収入	業 税	別 不動産/戸	集 家畜/戸	計 資産/戸	収入/戸	税/戸
16504.00	3184.50	19170.00	4440.00	458.44	88.46	546.90	532.50	123.33
20.00	0.00	150.00	0.00	20.00	0.00	20.00	150.00	0.00
17819.00	3904.00	28616.00	5868.50	318.20	69.71	387.91	511.00	104.79
40.00	0.00	150.00	0.00	40.00	0.00	40.00	150.00	0.00
345.00	200.00	1650.00	425.00	115.00	66.67	181.67	550.00	141.67
1371.00	1000.00	3400.00	699.00	342.75	250.00	592.75	850.00	174.75
8480.00	3026.00	15150.00	3281.50	385.45	137.55	523.00	688.64	149.16
151754.50	30576.50	155136.00	30489.50	824.75	166.18	990.93	843.13	165.70
71573.00	29244.00	99775.00	20960.50	601.45	245.75	847.20	838.45	176.14
12837.00	4475.00	24925.00	5156.50	475.44	165.74	641.19	923.15	190.98
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
11360.00	2570.00	16270.00	3834.50	436.92	98.85	535.77	625.77	147.48
3743.00	1170.00	5500.00	1071.00	415.89	130.00	545.89	611.11	119.00
4402.50	2322.00	13000.00	3002.00	209.64	110.57	320.21	619.05	142.95
103915.50	39781.00	159470.00	34024.50	511.90	195.97	707.86	785.57	167.61
400.00	160.00	800.00	245.00	200.00	80.00	280.00	400.00	122.50
0.00	0.00	750.00	101.00	0.00	0.00	0.00	750.00	101.00
275.00	240.00	400.00	101.00	275.00	240.00	515.00	400.00	101.00
509.00	1725.00	1650.00	326.00	254.50	362.50	1117.00	825.00	163.00
100.00	410.00	500.00	104.00	100.00	410.00	510.00	500.00	104.00
1940.00	774.00	1450.00	338.50	646.67	253.00	904.67	483.33	112.83
110.00	0.00	300.00	95.00	110.00	0.00	110.00	300.00	95.00
90.00	0.00	250.00	70.00	90.00	0.00	90.00	250.00	70.00
6482.50	3245.00	9650.00	1768.00	1296.50	649.00	1945.50	1930.00	353.60
1855.00	375.00	2850.00	509.00	371.00	75.00	446.00	570.00	101.80
5437.00	3475.00	8625.00	1716.00	339.81	217.19	557.00	539.06	107.25
65.00	0.00	400.00	83.00	65.00	0.00	65.00	400.00	83.00
0.00	200.00	750.00	154.00	0.00	200.00	200.00	750.00	154.00
190.00	120.00	800.00	192.00	190.00	120.00	310.00	800.00	192.00
591.00	50.00	1700.00	409.00	197.00	16.67	213.67	566.67	136.33
470.00	36.00	800.00	183.00	235.00	18.00	253.00	400.00	91.50
1315.00	150.00	1850.00	359.00	438.33	50.00	488.33	616.67	119.67
5784.00	1670.00	5200.00	1175.50	964.00	278.33	1242.33	866.67	195.92
19400.00	7742.00	31925.00	7455.00	359.26	143.37	502.63	591.20	138.06
965.00	0.00	300.00	0.00	321.67	0.00	321.67	100.00	0.00
75.00	0.00	350.00	69.00	75.00	0.00	75.00	350.00	69.00
820.00	500.00	2000.00	538.00	410.00	250.00	660.00	1000.00	269.00
2695.00	390.00	2075.00	409.00	1347.50	195.00	1542.50	1037.50	204.50
465.00	50.00	500.00	170.00	465.00	50.00	515.00	500.00	170.00
6202.00	1718.00	7600.00	1590.00	620.20	171.80	792.00	760.00	159.00
56235.50	23030.00	83475.00	18160.00	439.34	179.92	619.26	652.15	141.88
15.00	0.00	600.00	115.00	15.00	0.00	15.00	600.00	115.00
1470.00	310.00	2850.00	585.00	490.00	103.33	593.33	950.00	195.00
1687.00	720.00	4000.00	787.00	562.33	240.00	802.33	1333.33	262.33
195.00	230.00	800.00	166.00	195.00	230.00	425.00	800.00	166.00
100.00	35.00	700.00	140.00	100.00	35.00	135.00	700.00	140.00
5020.00	724.00	1500.00	327.00	5020.00	724.00	5744.00	1500.00	327.00

不動産	家畜	職収入	業税	別	集	計		
不動産／戸	家畜／戸	収入／戸	税／戸	不動産／戸	家畜／戸	資産／戸	収入／戸	税／戸
8487.00	2019.00	10450.00	2120.00	848.70	201.90	1050.60	1045.00	212.00
4040.00	15330.00	6050.00	1213.50	448.89	1703.33	2152.22	672.22	134.83
1267.50	1990.00	4800.00	1105.00	181.07	284.29	465.36	685.71	157.86
261.00	195.00	2550.00	638.00	43.50	32.50	76.00	425.00	106.33
5568.50	17515.00	13400.00	2956.50	253.11	796.14	1049.25	609.09	134.39
840.00	100.00	550.00	130.00	840.00	72.00	940.00	550.00	130.00
9600.50	3873.00	17715.00	3891.50	320.02	129.10	449.12	590.50	129.72
40.00	35.00	600.00	120.00	40.00	35.00	75.00	600.00	120.00
1180.00	50.00	2650.00	585.00	295.00	12.50	307.50	662.50	146.25
415.00	280.00	750.00	231.00	207.50	140.00	347.50	375.00	115.50
260.00	250.00	1200.00	329.00	86.67	83.33	170.00	400.00	109.67
5773.50	350.00	3365.00	1057.00	1443.38	87.50	1530.88	341.25	264.25
18948.00	0.00	3300.00	706.00	6316.00	0.00	6316.00	1100.00	235.33
250.00	140.00	850.00	187.00	125.00	70.00	195.00	425.00	93.50
475.00	600.00	800.00	236.00	475.00	600.00	1075.00	800.00	236.00
665.00	180.00	350.00	65.00	665.00	180.00	845.00	350.00	65.00
177.50	50.00	920.00	356.00	44.38	12.50	56.88	230.00	89.00
895.00	705.00	1500.00	340.00	895.00	705.00	1600.00	1500.00	340.00
530.00	300.00	1500.00	295.00	530.00	300.00	830.00	1500.00	295.00
40049.50	6913.00	36050.00	8528.50	690.51	119.19	809.70	621.55	147.04
33.50	70.00	650.00	196.00	16.75	35.00	51.75	325.00	98.00
952.50	0.00	1550.00	365.00	238.13	0.00	238.13	387.50	91.25
848.00	245.00	2725.00	471.50	94.22	27.22	121.44	302.78	52.39
15.00	500.00	1050.00	269.00	5.00	166.67	171.67	350.00	89.67
855.00	170.00	700.00	155.50	427.50	85.00	512.50	350.00	77.75
185.00	50.00	1050.00	305.00	92.50	25.00	117.50	525.00	152.50
56961.00	6845.00	21050.00	3555.00	7120.13	855.63	7975.75	2631.25	444.38
59850.00	7880.00	28775.00	5317.00	1995.00	262.67	2257.67	959.17	177.23
505326.00	147985.50	567671.00	119284.00	685.65	200.79	886.45	770.25	161.85
540.00	395.00	375.00	92.00	270.00	197.50	467.50	187.50	46.00
17529.00	8047.00	24320.00	5039.00	584.30	268.23	852.53	810.67	167.97
50.00	2120.00	0.00	0.00	50.00	2120.00	2170.00	0.00	0.00
1920.00	7271.00	4650.00	1030.50	147.69	559.31	707.00	357.69	79.27
1765.00	865.00	3160.00	719.50	220.63	108.13	328.75	395.00	89.94
20.00	0.00	300.00	60.00	20.00	0.00	20.00	300.00	60.00
5547.50	4191.00	10500.00	1905.50	213.37	161.19	374.56	403.85	73.29
34288.50	10248.50	52610.00	12190.00	233.26	69.72	302.97	357.89	82.93
100.00	25.00	400.00	104.00	100.00	25.00	125.00	400.00	104.00
61760.00	33162.50	96315.00	21140.50	269.69	144.81	414.51	420.59	92.32
3090.00	677.00	4050.00	904.00	515.00	112.83	627.83	675.00	150.67
28.00	120.00	0.00	0.00	5.60	24.00	29.60	0.00	0.00
3118.00	797.00	4050.00	904.00	283.45	72.45	355.91	368.18	82.18
342590.50	303926.50	341741.00	180599.50	650.65	234.69	385.34	649.99	139.46

グラフ2-A 都市民の就労状況 (1562戸)



グラフ2-B 職業構成 (1295戸)

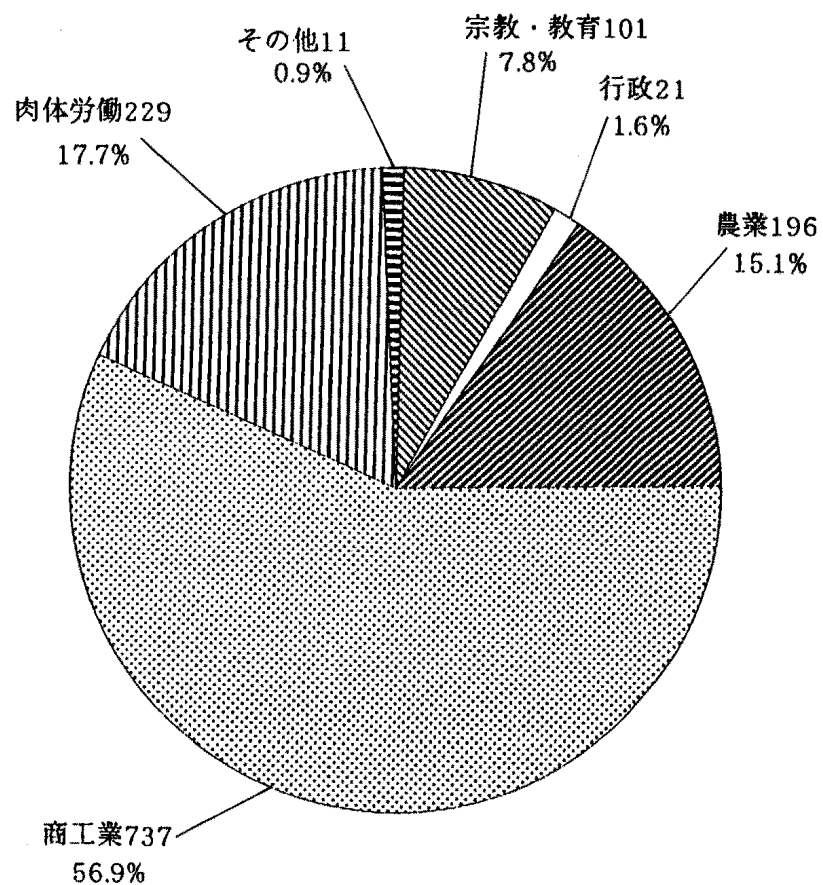


表3 主要人物資産一覧

1. 時計職人。中背、灰色の顎髭の、アーシュク・ムスタファ (街区④第29戸)

耕作地 (播種地)	2片	2.5ドニウム	25クルシュ	
ぶどう畑	1片	0.5ドニウム	50クルシュ	
不動産評価額合計		75クルシュ	資産合計	75クルシュ
収入 350クルシュ			税額 69クルシュ	

2. 中背、黒い顎髭の、ギリディー・ザーダ・ハジ・ヤークブ・ベイ (街区⑥第1戸)

耕作地	18片	401ドニウム	1905クルシュ	
ぶどう畑	2片	2ドニウム	125クルシュ	
アバ店の1/3の株	1くち		2500クルシュ	
製粉場の粉のとり分	1/2	2くち	2250クルシュ	
銅製品店	1件		(記載なし)	
パン屋焼きがま	1/2基		500クルシュ	
ゴマ付パン屋焼きがま	1基		300クルシュ	
売店および仕立て屋店	1/2	2くち	200クルシュ	
かどにある店	1件		300クルシュ	
乳水牛	2頭		400クルシュ	
ラバの子	1頭		100クルシュ	
ロバの子	1頭		25クルシュ	
羊	300頭		7500クルシュ	
不動産評価額合計		8080クルシュ	家畜評価額合計	8025クルシュ
資産合計		16105クルシュ		
収入 2750クルシュ			税額 464クルシュ	

上述の人物のチフトリキ差配、長身、うす茶の顎髭の、ムスタファ・アガ (街区⑥第1戸の下に記載され、戸の番号なし)

ぶどう畑	1片	0.75ドニウム	50クルシュ	
雌水牛	1頭		120クルシュ	
乳牛	2頭		200クルシュ	
雌牛	3頭		290クルシュ	
去勢牛	1頭		60クルシュ	
荷馬	1頭		200クルシュ	
羊	50頭		1250クルシュ	
不動産評価額合計		50クルシュ	家畜評価額合計	2120クルシュ
資産合計		2170クルシュ		
収入 (記載なし)			税額 (記載なし)	

3. 中背、黒い顎髭の、ギリディー・ザーダ、不幸にも公職から退いているメフメト・ベイ・エフェンディ閣下 (ハラルジャ村 第1戸)

耕作地	12片	817ドニウム	(記載なし)	
播種地		394ドニウム		
休閒地		424ドニウム		
ぶどう畑	5片	7.5ドニウム	150クルシュ	
採草地		(記載なし)	(記載なし)	
耕作水牛	14頭		4200クルシュ	
乳水牛	2頭		(記載なし)	

荷馬	4頭	(記載なし)
ラバ	5頭	2500クルシユ
羊	953頭	23525クルシユ
アバ店の1/3株	1くち	5000クルシユ
年間賃貸料		1500クルシユ
パン屋焼きがま	1/2基	2000クルシユ
賃貸料		400クルシユ
売店の1/2株および複数の靴店		250クルシユ
賃貸料		50クルシユ

周辺村における製粉場の粉のとり分

合計5くち (記載なし)

*前述の者(メフメト・ベイ)のユズムジュ・チフトリキにおける財産			
耕作地	14片	1110ドニユム	7105クルシユ
	播種地	610ドニユム	(台帳記録のママ)
	休閒地	195ドニユム	(台帳記録のママ)
ぶどう畑	1片	1.5ドニユム	150クルシユ
耕作水牛	10頭		2200クルシユ
乳水牛	12頭		1750クルシユ
乳水牛 子付	11頭		1040クルシユ
水牛の子	12頭		480クルシユ
若い雌水牛	5頭		300クルシユ
去勢牛と若い雌牛	9頭		460クルシユ
子牛	3頭		75クルシユ
種牛	1頭		200クルシユ
雌馬	21頭		2520クルシユ
2、3歳馬と雌馬	14頭		940クルシユ
1歳馬	8頭		400クルシユ
種馬	1頭		300クルシユ
不動産評価額合計	16605クルシユ (台帳の記録は15255)		
家畜評価額合計	36690クルシユ (台帳の記録は41190)		
資産合計	53295クルシユ (台帳の記録は56445)		
収入	2000クルシユ	税額	0クルシユ

4. チングネ・オウルとして知られている、中背、灰色の顎髭の、皮なめし職人、ヤークブ・アガ(街区⑩第1戸)

耕作地	6片	48ドニユム	640クルシユ
	播種地	28ドニユム	女の親戚の兄弟と共有
	休閒地	20ドニユム	
ぶどう畑	4片	6.5ドニユム	400クルシユ
別のぶどう畑	1片	0.5ドニユム	50クルシユ
くわ畑		0.5ドニユム	50クルシユ
乳水牛	1頭		250クルシユ
若い雌水牛	1頭		150クルシユ
荷馬	3頭		600クルシユ
ロバ	1頭		50クルシユ
皮なめし工房	3件		950クルシユ
不動産評価額合計	2090クルシユ	家畜評価額合計	1050クルシユ
資産合計	3140クルシユ		
収入	1450クルシユ	税額	288.5クルシユ

5. バルケスィル郡の法学者、長身、薄黒い顎髭の、ラマザーン・ザーデ・エッセイド・アリー・エフェンディ（街区①第1戸）

耕作地	6片	27ドニウム	1350クルシュ
	播種地	19ドニウム	
	休閒地	8ドニウム	
ぶどう畑	2片	1.5ドニウム	150クルシュ
くわ畑		0.25ドニウム	40クルシュ
乳水牛	1頭		120クルシュ
乳牛	2頭		100クルシュ
養蜂箱	1箱		12クルシュ
生地商店	1/6件の株	1くち	75クルシュ
搾油小屋	1/4件の株	1くち	150クルシュ
不動産評価額合計		1765クルシュ	家畜評価額合計 232クルシュ
資産合計		1997クルシュ	収入（記載なし）
税額 郡の法学者にしてファトマ・スルタン・マドラサの教授であるため、税は徴収されなかった			

6. 書記。中背、灰色の顎髭の、人口調査官ヒュセイン・エフェンディ（街区⑥第11戸）

耕作地	9片	50ドニウム	(記載なし)
隔年耕作	播種地	32ドニウム	
	休閒地	18ドニウム	
ぶどう畑	5片	2.25ドニウム	225クルシュ
耕作水牛	2頭		450クルシュ
耕作牛	2頭		250クルシュ
乳牛	5頭		480クルシュ
去勢牛	1頭		60クルシュ
荷馬	2頭		500クルシュ
ロバ	1頭		100クルシュ
製粉場からのとり分	1くち		4000クルシュ
搾油小屋	1件		1000クルシュ
不動産評価額合計		5225クルシュ	家畜評価額合計 1840クルシュ
資産合計		7065クルシュ	
収入 2000クルシュ			税額 365クルシュ

7. 商人。ヤズジュザーデ、中背、茶色の顎髭の、ジュールナル、アフメト・エフェンディ（街区⑥第7戸）

耕作地	7片	92ドニウム	1934クルシュ
乳水牛	1頭		300クルシュ
荷馬	1頭		200クルシュ
アバ店	1件		200クルシュ
パシャ・キョイ周辺にある荒廃した製粉場からの4/24のとり分			
	7くち		150クルシュ
テベジキ村製粉場からの4/24のとり分			
	7くち		1500クルシュ
不動産評価額合計		3784クルシュ	家畜評価額合計 500クルシュ
資産合計		4284クルシュ	
収入 2000クルシュ			税額 365クルシュ

8. トプカプ宮殿の門衛長官待遇の、バルケスィル前代官シェリフ・アガのキョイリュ・キョイ村におけるチフトリキ（キョイリュ・キョイ村 第25戸）

耕作地	42片	1552ドニウム	30320クルシュ
-----	-----	----------	-----------

	播種地	667ドニウム	
	休閑地	885ドニウム	
ぶどう畑	5片	9ドニウム	900クルシュ
くわ畑	2片	21ドニウム	3150クルシュ
耕作水牛	15頭		4400クルシュ
乳水牛	16頭		4800クルシュ
若い雌水牛と子	7頭		1120クルシュ
耕作牛	13頭		2750クルシュ
去勢牛、若い雌牛、子牛	75頭		5210クルシュ
乳牛	48頭		5760クルシュ
荷馬	3頭		600クルシュ
ロバと子	7頭		610クルシュ
山羊	52頭		1040クルシュ
羊	215頭		5375クルシュ
ラバ	17頭		7000クルシュ
不動産評価額合計	34370クルシュ	家畜評価額合計	38665クルシュ (台帳の記録は39765)
資産合計	73035クルシュ		
収入	7500クルシュ	税額	(記載なし)

9. バルケシルの前代官でトプカブ宮殿門衛長官待遇のシェリフ・アガの兄弟、ユスフ・アガのアスルハン村におけるチフトリキ (アスルハン村 第23戸)

耕作地	21片	983ドニウム	11525クルシュ
隔年耕作	播種地	715ドニウム	
	休閑地	268ドニウム	
ぶどう畑	1片	2ドニウム	200クルシュ
野菜畑	1片	8ドニウム	280クルシュ
村はずれの製粉場からのとり分	1件		9000クルシュ
耕作水牛	10頭		2800クルシュ
乳水牛 子牛付き	2頭		400クルシュ
若い雌水牛	2頭		240クルシュ
耕作牛	6頭		1400クルシュ
乳牛	35頭		4050クルシュ
去勢牛	40頭		2720クルシュ
雌馬と子馬	5頭		950クルシュ
庭師用荷馬	1頭		150クルシュ
ラバ	4頭		2000クルシュ
山羊と羊	452頭		11300クルシュ
不動産評価額合計	21155クルシュ	家畜評価額合計	15690クルシュ
資産合計	36845クルシュ		
収入	0クルシュ	税額	0クルシュ 今日に至るまで税は徴収されなかった

10. ミールザー・ベイ街区のモスクの導師、中背、灰色の顎髭の、アバ商ギルド長、メフメド・エフエンディ (街区⑥第70戸)

耕作地	4片	21.5ドニウム	1270クルシュ
ぶどう畑	1片	0.5ドニウム	50クルシュ
ベチェリ・ペンジェレスイにある店	1件		200クルシュ
古い屋根付市場にある店	1件		150クルシュ
不動産評価額合計	1670クルシュ	資産合計	1670クルシュ
収入	2500クルシュ	税額	0クルシュ